

令和7年度 第1回海老名市文化財保護審議会会議 次第

日 時 令和7年8月18日（月）

9時00分～

会 場 こどもセンター201会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

海老名市指定重要文化財の指定について

「海老名の祭囃子」の指定重要無形民俗文化財指定及び
保持団体の認定

資料1

4 報告事項等

（1）海老名市デジタルアーカイブの構築について

資料2

（2）旧今福家住宅文庫蔵等保存調査修理設計について

資料3

（3）相模国分寺跡保存活用計画の進捗について

資料4

（4）令和6年度事業実施結果

資料5

（5）令和7年度事業概要

資料6

5 閉 会

海教総発第 30 号
令和 7 年 5 月 28 日

海老名市文化財保護審議会会長殿

海老名市教育委員会



海老名市指定重要文化財の指定について（諮問）

海老名市文化財保護条例（平成 31 年 3 月 28 日海老名市条例第 8 号）第 5 条に基づく海老名市指定重要文化財の指定について、同条例第 28 条第 3 項の規定に基づき、次のとおり諮問します。

記

1. 諮問事項

海老名市指定重要無形民俗文化財の指定及び保持団体の認定について

2. 諮問の理由

海老名市域の祭囃子の成立は、最も古い地区で江戸時代にさかのぼり、太平洋戦争開戦頃に中断したが、その後再開・復活し、昭和 52 年に海老名市はやし保存連絡協議会が発足した。以降協議会として市民まつり（旧ふるさとまつり）への参加や、新春はやし叩き初め大会の開催などを通じ、各地区の各地区のはやし連の活動を促進し、郷土の民俗芸能として継承している。

しかしながら、地区により少子化や、新型コロナウイルス感染症による社会的影響などにより、祭囃子の叩き手や指導者が減少しつつあり、貴重な地域の民俗芸能である「海老名の祭囃子」の保存と継承のための措置が必要と認められる。このことから、海老名市指定重要無形民俗文化財として指定するとともに「海老名市はやし保存連絡協議会」を保持団体として認定したいため。

3. 海老名市指定重要文化財の候補

- (1) 名 称 海老名の祭囃子
- (2) 区 分 指定重要無形民俗文化財
- (3) 保持団体 海老名市はやし保存連絡協議会
会長 大塚真樹

調査書

1. 名 称： 海老名の祭囃子

2. 区 分： 無形民俗文化財

3. 保持団体：海老名市はやし保存連絡協議会

4. 代表者： 会長 大塚真樹

5. 文化財の概要

海老名市内には 17 地区のはやし保存会（はやし連）があり、地区内外の祭礼等で演奏が行われている。このうち 10 地区（国分、上郷、下今泉、今里、大谷、門沢橋、社家、杉久保、中野、本郷新宿）が江戸時代後期から明治期に開始され、4 地区（柏ヶ谷、中河内、下河内、上町）は大正時代から戦前に開始、その他 3 地区は周辺地区からの教えにより昭和 50 年代に開始された。囃子の演奏は各地区とも太平洋戦争により中断したものの、昭和 50(1975)年頃から再開、復活した。昭和 51(1976)年に市制 5 周年を記念したえびなふるさとまつりの開催を契機として、昭和 51(1976)年に「海老名市はやし連」が発足、昭和 52(1977)年には各地区が所属する「海老名市はやし保存連絡協議会」に発展、えびなふるさとまつり（平成 18(2006)年からはえびな市民まつりに改名）に参加し演奏するとともに、昭和 54（1979）年からは毎年 1 月に新春はやし叩き初め大会を開催し、各地区が一堂に会し演奏を行っている。

市内の祭囃子の系統は北部と南部で異なり、北部は柏ヶ谷、上今泉、河原口、国分、下今泉、中新田で大和市、綾瀬市、座間市と関連が深く、南部は大谷、今里、社家、中野、門沢橋、中河内、杉久保、本郷 3 地区で平塚市、茅ヶ崎市域の囃子と関連が深い。

同じ系統であっても各地区で演奏する曲目や叩き方、囃子のことば、テンポ、掛け声は少しずつ異なるが、使用する楽器は共通しており、大太鼓 1、小太鼓（締太鼓）4、笛（篠笛）1、摺鉦 1 を基本とする。各団体、祭礼の際にはトラックの荷台に屋台を組み上げ、揃いの法被を着用した叩き手が乗車し、移動しながら演奏する。屋内の演奏では小太鼓の後ろに座布団を敷き、叩き手が多い場合は交代しながら演奏する。囃子の叩き手は小中学生が多く、かつては青少年の健全育成の側面もあったが、近年は郷土芸能として、囃子の音色を次世代に継承する側面が強くなっている。

なお、海老名市内では祭囃子を「はやし」、「おはやし」と呼称するが、無形民俗文化財としての名称は神社祭礼に奉納される祭囃子であることを踏まえ、「海老名の祭囃子」とする。

6. 保持団体

「海老名市はやし保存連絡協議会」は昭和 52(1977)年に発足し、海老名市域に江戸時代から明治時代に伝来した祭囃子を継承する 17 団体（但し令和 7 年度現在 2 団体が休会中）全てが所属する。発足以来各地区での祭礼以外に全地区が協力し、長年市民まつりに参加するとともに、新春はやし叩き初め大会を開催してきた。地区同士で技術を伝授しあう等、相互に協力することで海老名の祭囃子の演奏を担っている。今後も海老名市の祭囃子を継

承する上で欠かせない組織であり、長く存続することが見込まれる。

7. 所 見

祭囃子は「神社の祭礼に際し氏子が練り物・山車・屋台などを連ねて神輿を供奉する際に囃される囃し」[城所恵子 2010] で、太鼓、笛、鉦のほか三味線や小鼓などを伴う場合もある。海老名市で伝えられている祭囃子は江戸の天下祭（神田祭・山王祭）にて演奏されていた祭囃子の影響を受けているとされる。この祭囃子は「江戸祭囃子」と称され、関東一円に同様の形態の祭囃子がある。江戸を中心とした東京都 23 区周辺では大太鼓 1、締太鼓 2、笛 1、鉦 1 の楽器編成で五人で演奏することから五人囃子ともいわれる。東京都多摩地域ではこの五人囃子にヒョットコ・オカメ（通称バカ面、モドキ）、天狐、獅子舞などの踊りを伴うことも多い。神奈川県内の祭囃子は 322 団体あるが[神奈川県 2007]、五人囃子は川崎市、横浜市、相模原市に分布し、それ以外の市町村では締太鼓の数は 3 張以上である場合が大半である。海老名においても同様であり、締太鼓は 4 張から 7 帳である（本郷新宿はやし連では人数の調整により 3 張の場合もある）。

江戸祭囃子は前述の通り天下祭に端を発し広範囲に伝播した。そのため起原は江戸時代後期より前に遡ることはできない。五人囃子の楽器編成は天保期(1830～1844)に固定化し、安政 4 (1857) 年、5 (1858) 年の天下祭では五人囃子が登場している[入江宣子 2005]。ただし、五人編成となったのがこの時期であり、文化年間(1804～1817)に祭囃子の名人が活躍したことは示す資料もある[河原源十郎 1895]。したがって五人編成ではないにせよ、祭囃子は江戸の祭礼において演奏されていたと考えられる。

海老名市内の祭囃子において最も古い由来を持つのは国分囃子保存会で、その根拠を太鼓胴内の「文化二年」の銘に求めている[海老名市 1993]。この太鼓が祭囃子の楽器として使用されていたかは明らかではないが、同保存会では慶応年間に一度途絶え、明治 22 (1889) 年には大和市より現在の祭囃子を伝習している。次に由来の年代を古く遡れるのが大谷はやし連で嘉永 4 (1851) 年、つづく門沢橋渋谷囃子保存会は元治年間(1864～1865)で、先に示した天下祭での五人囃子成立時期とも重なる。また、下今泉はやし保存会では安政 2 (1855) 年の「太鼓勧化帳」に笛、太鼓、附太鼓、摺鉦の個数と金額が記録されている。近世まで遡る由来、記録があるのは 4 団体であるが、五人編成の江戸祭囃子が確立した時期を考えると、祭囃子の由来として明治期は非常に早い段階のものであり、海老名市内では 6 団体がそれに相当する[資料 1]。

現在伝承している海老名市内の祭囃子は、下町囃子系と新囃子系の二系統に分類できる。前者は旧海老名村を中心であるが、大谷は新囃子系に属する。伝承経路を確認すると柏ヶ谷、上今泉、下今泉は座間や綾瀬から伝播したと考えられ、音曲においても「屋台囃子」の唱歌や形式が同様のものは市内には見当たらない[資料 2、3]。一方で、上郷と河原口、国分と中新田はそれぞれ唱歌や奏法が類似しており各団体で伝えられている伝承経路と合わせても伝播のつながりが見られる。特に由来が古くに遡れる下今泉、国分は旧海老名村内の祭囃子に影響を与えたと推測できる。

新囃子系は旧有馬村を中心に伝えられ、さらに 2 系統に分類することができる。この 2 系統には音曲の相違が見られる。東側の杉久保、本郷下河内、本郷新宿、本郷上町及び旧海老名村の大谷と西側の中野では「屋台囃子」の地（弱奏のリズムパターン）が「スコトン」で始まる。また、〈地—かわちがい—地〉の間に〈乱拍子〉と〈きざみ〉を挿入する。西側の社家、門沢橋渋谷、今里、中河内では、地が「テンテケ」で始まる。構成は東側と同様で〈地—かわちがい—地〉であるが、その間に〈一の玉〉〈二の玉〉〈三の玉〉を挿入する。新囃子系はいずれも田村ばやし（平塚）から伝習した由来をもつ団体が大半である。平塚市内では田村ばやし系統、

馬入祇園囃子、囃子太鼓系統が伝えられており、音楽的分析も進められている〔浜野達也 2007、2009、2013〕。

以上の概観を踏まえたうえで、海老名市内の祭囃子について3点の所見を述べる。

（1）歴史

海老名市内の祭囃子は近世後期に由来する団体が4団体ある。うち、2団体については江戸の天下祭における祭囃子隆盛時期とも重なる。いずれの起原も口頭での伝承が中心であるため判然としないものの、市内における囃子の歴史を知るうえで下今泉はやし保存会の「太鼓勧化帳」は貴重な有形資料である。また、市内の祭囃子は明治期に6団体、大正期に2団体、昭和戦前期に2団体が始まったとされ、いわゆる江戸祭囃子の発祥時期を考えても比較的早い時期に伝えられている。また、戦時中中断した団体も戦後には再開しており、戦前からの伝承が続いている。

（2）音曲

海老名市内の祭囃子は下町囃子系と新囃子系に類型化され、更に新囃子系は2系統に分類することができる。それぞれ独自の工夫も見られ、それによって各団体の特色ある祭囃子を生み出している。しかし、音曲構造に大きな相違はないことも着目すべきであり、これは前の世代から音曲を大きく変更せず受け継いできたという証である。また、由来伝承から下町囃子系は綾瀬市、座間市、大和市域の祭囃子、新囃子系は平塚市の田村ばやしや厚木、茅ヶ崎市域の祭囃子との関連もうかがえる。新囃子系の門沢橋は田村から伝習したが、戦後になり田村ばやしの上町囃子連は門沢橋の内海氏から全曲の笛を習い覚え、現在の上町の笛のルーツであるという〔浜野達也 2007, 9〕。口頭での由来伝承や伝承経路と合わせて、周辺地域の祭囃子との関係性を音曲から明らかにすることで、県央、湘南地域の祭囃子の研究を進めることができよう。

（3）地域的特色

市内で発足が遅い団体は中新田はやし連と河原口はやし連で、それぞれ昭和54(1979)年、昭和59(1984)年である。しかしまったくの外部から囃子を伝習したのではなく、中新田は国分から、河原口は上郷から習っている。一度中断をした場合でも再開時は市内の囃子から教わったり（本郷新宿など）、途絶えてしまった笛を大谷から改めて伝習したり（杉久保）、踊りを大谷歌舞伎の蛭間氏が復活させる（下今泉）など、市内での祭囃子ネットワークが確立されている。このように、市内の祭囃子は地域の中で競争心を持ち独自の工夫を重ねながらも互助してきたからこそ、現在においても活発な活動が継続できている。

海老名市の祭囃子は歴史性、独自性、伝承性いずれにおいても地域に根付く貴重な文化として判断することができる。一方で後継者不足などの課題を抱える団体も多い。文化財指定することでより市内外で広く認知されることで継承問題の解決の糸口を探り、団体同士の交流もより盛んになることが期待される。

参考文献

入江宣子 2005「江戸祭り囃子とその周辺」植木行宣・田井竜一編『都市の祭礼―山・鉾・屋台と囃子』岩田書院

河原源十郎 1895『祭礼囃子の由来』明教社

海老名市編 1993『海老名市史 9 別編 民俗』海老名市

神奈川県教育委員会編 2006『神奈川県民俗芸能緊急調査報告書』神奈川県教育委員会
浜野達也 2007「相模の祭囃子研究 1 平塚市の囃子太鼓」『自然と文化』(30)平塚市博物館
浜野達也 2009「相模の祭囃子研究 2 平塚市の「囃子」の音楽的分析」『自然と文化』(32)平塚市博物館
城所恵子 2010「祭囃子」神田より子、俵木悟編『民俗小辞典 神事と芸能』吉川弘文堂
浜野達也 2013「相模の祭囃子研究 3 平塚市における「刻み」「昇殿」「神田丸」等の楽曲分析」
『自然と文化』(36)平塚市博物館

参考資料

- 1－1 海老名市域の囃子団体消長表
- 1－2 各団体年代根拠資料一覧
- 2 海老名市域の囃子伝承年代・経路図
- 3 採譜について（2）〈屋台囃子〉―採譜から見る類似点・相違点

所見執筆：高久舞

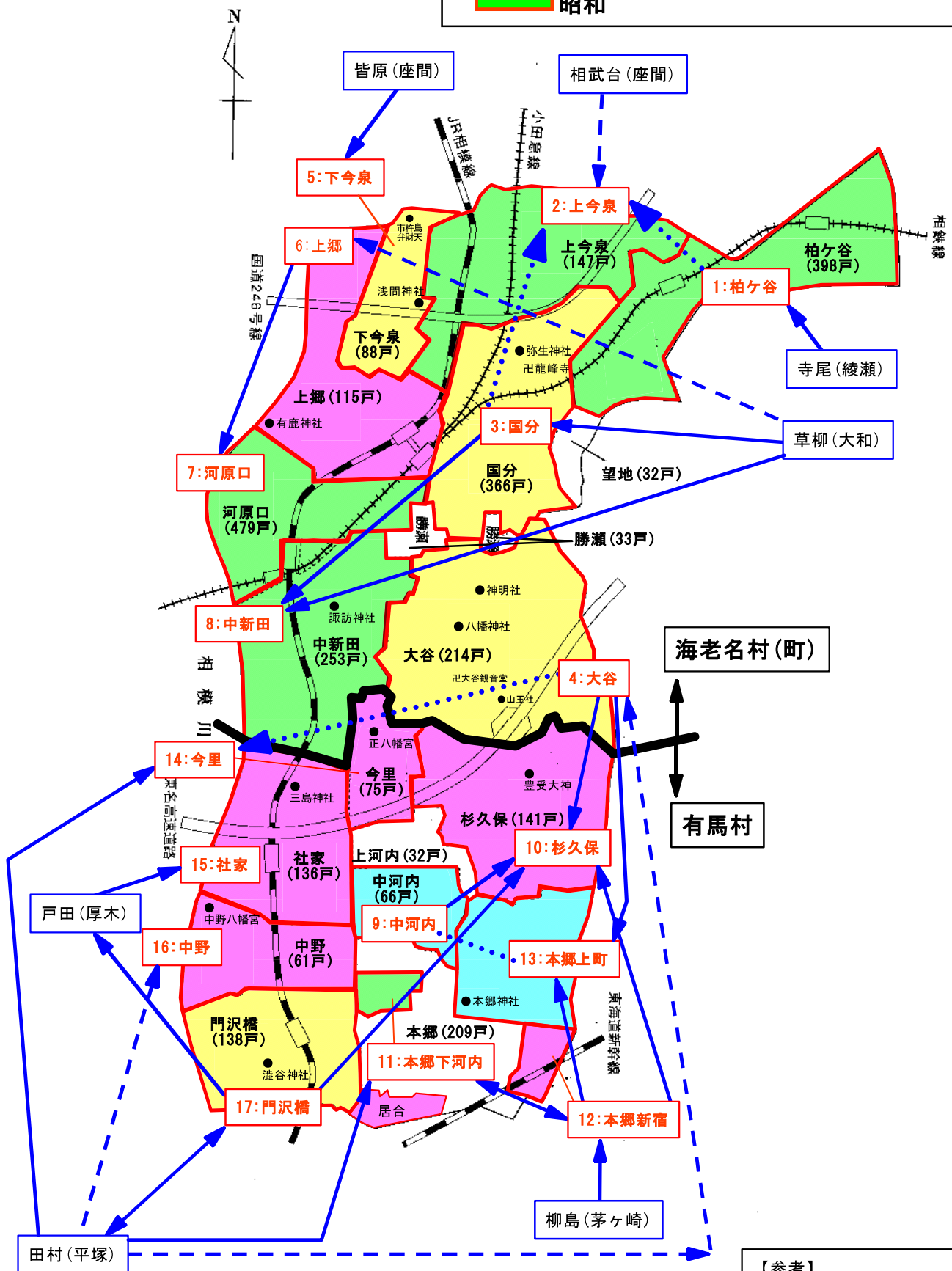
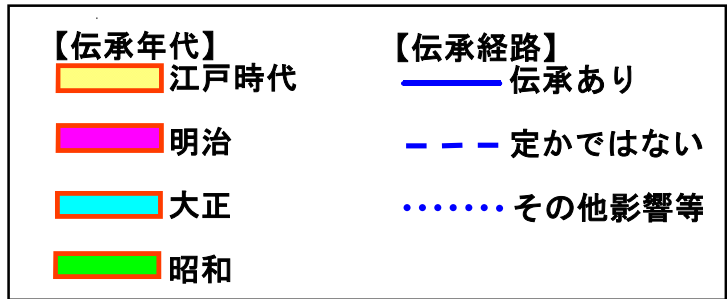
年 代			団 体	柏ヶ谷	上今泉	国分	大谷	下今泉	上郷	河原口	中新田	中河内	杉久保	本郷下河内	本郷新宿	本郷上町	今里	社家	中野	門沢橋渋谷	本郷居合
江戸			1800			1805 太鼓胴内															
							1851 発足	1855 太鼓勸化帳												海老名市史1864 ～ 1865	
明治			1900			1887年 復活 1911 国分郷誌	1911 国分郷誌	1911 国分郷誌	1911 国分郷誌				海老名市史					海老名市史	1882 本郷神社	1888～ 1892 浜降祭参加	不明 1882 本郷神社
大正						1920年 再開	1926 山王社文書														
昭和	6			1931 発足																	
	16			1941		1939～ 1945 国分郷誌															
昭和				1970																	
	50			1975 再開					1975 再開												
昭和	51			・市制5周年記念 えびなふるさとまつり参加 会場：市役所 ・市を統合する「海老名市はやし連」発足	市制5周年記念 えびなふるさとまつり	市制5周年記念 えびなふるさとまつり								1976 再開							
	52			・第2回えびなふるさとまつり参加 会場：海西中学校 ・海老名市はやし保存連絡協議会 発足	第2回 えびなふるさとまつり	第2回 えびなふるさとまつり								第2回 えびなふるさとまつり					第2回 えびなふるさとまつり		
昭和	53			・第3回えびなふるさとまつり参加 会場：海老名小・中学校 海老名市はやし保存連絡協議会として 12団体で参加 ・協議記録集規約SS3の施行		第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり			1978再開 第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり		第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり	第3回 えびなふるさとまつり
	54			新春はやし叩き初め大会開始	第3回 えびなふるさとまつり			1979 再開			1979 発足										
昭和	55				1980 再開								1980 子どもたちへ指導				1981 協議会加入				
								1990 自治会移管													
平成			2000																		
令和												休会 令和5年							休会 令和7年～		

海老名市域の囃子団体消長表

※本郷居合は文献により活動していた可能性はあるが、現在は存続していない。

団体	根拠資料	巻	ページ	資料表題	記載内容	年代
柏ヶ谷	海老名市史 9		629	別編 民俗	綾瀬村寺尾から師匠を招き団員25名により囃子連が結成。	昭和6(1931)年
	団体資料				昭和2(1927)年に海老名村青年団柏ヶ谷支部、支部長山崎千代吉氏以下25名が綾瀬村寺尾の早川啓助、近藤昇作両氏を師匠として柏ヶ谷はやし連を結成。太平洋戦争の中断を経て復活したものの、2～3年で途切れていたが、昭和50(1975)年に保存会として正式に結成	
上今泉	団体資料				戦前の状況は定かではないが、青年団の活動が行われていた。昭和55年に保存会が設立され、現在に至る。 ※昭和55(1980)年10月復活。復活には、座間(相武台)より笛を伝授。	戦前は不明 昭和55(1980)年
国分	海老名市史 9		629	別編 民俗	太鼓の胴内に文化2(1805)年新調と墨書。 慶応年間に中断したが、明治2(1869)2年草柳(大和市)の師匠により伝授。	文化2(1805)年
	国分郷誌(昭和55年発行)		82～86		明治22(1889)年復活。筆者の父などがその当時に大和村草柳より伝授。明治44(1911)年頃途絶え、大正9(1920)年筆者を含め囃子連組織結成。 明治大正年間、海老名村で囃子連があったのは国分、大谷、上郷、下今泉。	
大谷	団体資料				神社の氏子青年の集まりによる太鼓の練習と演奏が活動の発端であったと伝えられている。平塚の田村囃子に起源があるといわれているが、継承経路は定かではない。	嘉永4(1851)年
	海老名市史 9		628	別編 民俗	明治時代に行われていた地区	明治
	山王社(大谷)所蔵文書	2		山王社余興費控	収入之部 金1円 囃子連	大正15.2(1926)
下今泉	①海老名市史 9 ②弁財天・市杵島神社		①629	①別編 民俗 ②太鼓勸化帳	「太鼓勸化帳」に安政2年とあり。 「笛、芫。太鼓、芫。附太鼓、芫組。摺鉦、芫。代金参両式朱也」とある。	安政2(1855)年
	団体資料				下今泉の囃子は座間市の皆原から伝えられたもので「下町ばやし」とのことで、当時の青年団の青年達により浅間神社の祭礼で自慢の腕を披露し、それが引き継がれてきた。下今泉のはやしの特徴は「おかめ・ひよっこ・獅子」踊りがあり、踊りは蛭岡定一氏(歌舞伎役者)により復活され、現在に引き継がれている。戦時中より途絶え、昭和54(1979)年復活。	
上郷	海老名市史 9		629	別編 民俗	草柳の方から来た東京の人より伝授されたという伝承あり。	明治
	団体資料				昭和50(1975)年復活。	
河原口	団体資料				戦前は不明だが、昭和59(1984)年4月に河原口はやし連を設立。※上郷より伝授。	昭和59(1984)年
中新田	団体資料				鎮守諏訪神社の祭礼を賑やかにするため、昭和54(1979)年に会を発足させた。その後、神輿の有志の会を発足するとともに、国分はやし保存会と大和市団体から指導を受け現在に至る。	昭和54(1979)年
中河内	他団体の伝聞				本郷上町より;かつての指導者(大正5年生)が、中河内の同級生と一緒に修練していたと聞いた。	大正
杉久保	海老名市史 9		629	別編 民俗	本郷新宿から伝授されたという伝承あり。	明治
	団体資料				昭和40(1965)年頃、当時の青年団により復活。その後、昭和55(1980)年から子どもたちへの指導を始め、現在に至る。復活時に笛を大谷より伝授。 有馬村時代は社家や「けんかばし」として、いろんな場所で叩いていた。	
本郷下河内	郷土誌 本郷		140		戦前は青年団を中心に盛んに行われていたが、戦後は一時途絶える。	昭和(戦前)
	下河内公民館新築記念誌		20		昭和51(1976)年に町内の盆踊りで復活。	
	団体資料				・平塚市田村地区にある田村囃子の流れをくむ ・茅ヶ崎より流れ、新宿から下河内に伝わったと言われている。 ※本郷、大谷とは似た叩き方。門沢橋、今里、社家とは全く違う。	
本郷新宿	海老名市史・郷土誌(本郷)		629・139	別編 民俗	明治6(1873)年茅ヶ崎柳島において一カ月で習得したという。 昭和10(1935)年頃までは盛んであったが戦争中に途絶え、昭和50(1975)年頃に復活。	明治6(1873)年
	本郷神社所蔵文書			見舞金控帳	金50銭 新宿太鼓連中	明治15.3.～ (1882)
	団体資料				大正4(1915)年小太鼓新調(墨書)	
本郷上町	郷土誌 本郷 (H3.3発行)		138		大正末期、当時青年団6名により町内会に相談して購入したのが始まり。	大正末期
	団体資料				大正時代に青年団主体で始まったと伝えられている。設立当初は村内の新宿より指導を受けて現在に至ったといわれている。太鼓楽譜は新宿が作成。戦争中の中断を経て昭和57(1982)年に復活し保存会設立とともに現在に至る。茅ヶ崎から伝わっているときいている。	昭和57(1982)年
今里	海老名市史 9		628	別編 民俗	大太鼓修理の際、胴内に明治年間の墨書。	明治42(1909)年
	団体資料				・記:明治42(1909)年8月吉日東京浅聖天町 御太鼓師 宮本卯之助 大極上赤身 尺二寸長 ・昭和50(1975)年代に3名程度の指導者が夜間に練習行って修得、復活	
社家	海老名市史 9		628	別編 民俗	明治時代に行われていた地区	明治
	団体資料				昭和50(1975)年に現会長の祖父(明治40(1907)年生)の代より教わる。 門沢橋と社家は戸田より	
中野	本郷神社所蔵文書	2			金50銭 中野村杵連中	明治15.3.11 (1882)
				芝居諸掛帳	金15円5銭也 是はトロ口はやし方給金渡ス	
					金25銭 たいこ礼	
	団体資料				戦前は不明だが、昭和49(1974)年に復活。 平塚市の神田囃子の系列と伝えられている。	昭和49(1974)年
門沢橋	海老名市史 9		629	別編 民俗	元治年間(1864～1865)伝来と伝承。	元治元(1864)年
	団体資料				平塚市田村の八坂神社から伝承。田村から大神、下戸田、一之宮、門沢橋等に伝承。江戸中期より寒川神社の關係で発祥したと伝えられ、明治時代の初期に神輿の修復と共に確立(明治21(1888)年から25(1892)年頃、渋谷神社の神輿や寒川神社の神輿と共に「浜降祭」に出ていた)。昭和50(1975)年、継承のため消防団員主体として「渋谷囃子保存会」を結成。	

各団体年代根拠資料一覧



海老名市域の囃子伝承年代経路図

【参考】

- ・戸数：部落別納税組合設置状況（昭和31年）
- ・地図：海老名の地名郷土誌 本郷

3 採譜について

(1) 考え方

祭囃子をはじめとする郷土の音楽は、人々の営みを通して常に変化するものである。郷土の音楽の採譜は、あくまで「その時・その場所」での演奏がどうであったかを、採譜者の感覚で捉える作業にすぎず、その音楽の在り様を正確に表現することはできない。例えば、西洋音楽のリズム譜では表現できない微妙な「間」が随所に存在する。大太鼓のリズムはその演奏機会や演奏者によって異なることが多く、毎回同じというわけではない。楽譜は「この日の演奏は、だいたいこのような感じだった」という採譜者の主観に基づく記録であるため、これを基にして演奏を再現しても、本来のお囃子の在り様を表現することはできないということは、念頭に置くべきである。

とはいえ、楽譜を比較することによって「リズムパターンが似ている」「〈きざみ〉と〈らんびょうし〉を含む構成が同じ」等の類似点、あるいは相違点を視覚的に捉えながら、各団体の音楽的なつながりを見出すことができる。採譜により得られた楽譜は、祭囃子伝承者へのインタビューや資料から得られた調査結果を補足するための、1つの手がかりとなるであろう。

(2) 屋台囃子——採譜から見る類似点、相違点

下町囃子系

弱奏のリズムパターン（〈地〉〈きざみ〉等、団体により呼称は異なる）を繰り返し、笛などの合図をきっかけに掛け合いのある強奏部分へ進行する。掛け合いは、「テレスクテレスク」（「テレ」と「スク」の掛け合い）のような唱歌で示され、締太鼓が2つのパートに分かれる。盛り上がりを見せた後、再び弱奏のリズムパターンに戻る。拍子の変化（間の取り方でもある）に富んでおり、息を合わせるところに各団体の特色を感じることができる。

上郷と河原口、国分と中新田はそれぞれ唱歌や奏法が類似しているため、伝播のつながりが見てとれるものの、年月を経て、独自の間や抑揚が生まれている。柏ヶ谷、上今泉、下今泉については、唱歌や形式が全く同じものは市内には見当たらない。

新囃子系

〈地〉と呼ばれる基本リズムと、〈かわちがい〉（〈カワチゲ〉〈玉〉等、団体により呼称は異なる）と呼ばれる部分を繰り返す。〈地〉はリズムパターン（「スコトントロツクトントコトントン」等）の反復であり、〈かわちがい〉では締太鼓と大太鼓との掛け合いが見られる。〈地—かわちがい—地〉（比較表ではABAと表示）を1まとまりとし、そのまとまりの間にさらに〈乱拍子〉〈きざみ〉などと呼ばれる部分を挿入しながら進行する。

1. 地が「スコトン」で始まるグループ（大谷、杉久保、本郷下河内、本郷新宿、本郷上町、中野）

〈地—かわちがい—地〉の間に、〈乱拍子〉〈きざみ〉を挿入する。大谷、杉久保、本郷新宿、中野は〈乱拍子〉→〈きざみ〉の順に挿入するが、本郷下河内は〈きざみ〉を先に演奏しており、本郷上町は〈きざみ〉を省略するなど、各団体により工夫が見られる。また、〈乱拍子〉の中にさらに〈宮昇殿〉や〈馬鹿囃子〉を挿入している団体もあり、構成はシンプルだがそれぞれに個性が見られる。

2. 地が「テンテケ」で始まるグループ（中河内、今里、社家、門沢橋渋谷）

〈地—かわちがい—地〉の間に、〈一の玉〉〈二の玉〉〈三の玉〉を挿入する（地が「スコトン」で始まるグループの中に〈かわちがい〉のことを〈玉〉と呼ぶグループがあるが、それとは意味が異なるので混乱を避けたい）。門沢橋渋谷の譜面によれば、〈一の玉〉〈二の玉〉〈三の玉〉は〈きざみ〉〈乱びょうし〉〈せめ〉とも言い換えられる。

中河内、今里、社家、門沢橋渋谷は、新春叩き初め大会の資料によれば、平塚の田村囃子と関係があると言われている。テンポが比較的速く、力強い演奏が特徴である。

海老名市の祭囃子〈屋台囃子〉——採譜による比較（2025年8月時点）

団体	楽譜 No.	系統	キザミや地の 唱歌・掛け声 による分類	採譜音源	形式の特徴	備考
1 柏ヶ谷	1	下町囃子	トロツク トンツクツ トロツクツ (きた)	2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館) 2025.5.9 見学 (会長自宅)	ぶっつけ→ 小さいの → 引手 (長い)→一地に下る→ 地★ → おひゃらひゃら → 天天きた → 引手 (長い)→ 小さいの →一地に下る→ 地 → うふひゃらひゃら → 地 → びやらっ → ろ →一地に下る → 地 → おわいとろ → 小さいの → 天天きた → 引手 → 小さいの →一地に下る→ (叩き初めでは岡崎を挟む) → 地★ にもどる	・掛け合いがある(テレスクテレスク) ・唱歌に「きた」とあるが、掛け声として聴かせることはしない
2 上今泉	2	下町囃子	テレツクツ テレツク ツーツーツー	2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	打込み→きざみ→ひゃう、ひゃう→引手→きざみ→ひゃとろ→引手 → (叩き初めでは岡崎を挟む) →きり	・掛け合いのような唱歌(テレトコテレトコ)があるが、締太鼓は全員同じリズムを叩く
3 国分	3	下町囃子	トロツク ツクツクツ トンツクツ 「きーたー」	2024.7.1 活動 (国分緑苑自治会館)	ブツケ→キザミ→一上り→キザミ→(一上り→キザミを何度か繰り返す)→大切り ※「一上り」の他にも「二上り」「三上り」「四上り」の唱歌は譜面に残っているが、現在まで演奏方法が伝わっているのは「一上り」のみ	・掛け合いがある(トロツクトロツク) ・笛や、大太鼓(譜面には「大堂」と記載)にも唱歌が残っている
4 大谷	4	新囃子	スコトントロツク トントコントン	2024.4.14 大谷神明社例大祭 (大谷神明社)	【Aじ Bかちがいがい】 ぶっつけ→ABA→ らんびょうし →A→ きざみ →A→きり	・大太鼓は奏者によりアレンジがある ・テンポの変化が大きい
5 下今泉	5	下町囃子	テンチキチ テテチキチ テレスク	2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	「テンチキチ テテチキチ テレスク」の部分を何度か繰り返し、「ソーラ」(後半部)に進む	・掛け合いがある(テレトロテレトロ)
6 上郷	6	下町囃子	ととつくと とんつくと ととつくと 「きーたー」	2024.6.28 活動 (上郷自治会館)	「ととつくとんつくとととつくと」の部分を繰り返し、笛をきっかけに掛け合いに進む	・掛け合いがある(ととつくととつくと) ・強く叩くところ(「とん」等)と、皮面を押さえるところ(「つくと」等)がある
7 河原口	7	下町囃子	ととつくと とんつくと ととつくと 「きーたー」	2024~2025活動 (河原口自治会館)	「ととつくとんつくとととつくと」の部分を繰り返し、笛をきっかけに掛け合いに進む	・掛け合いがある(ととつくととつくと) ・基本のリズムパターンは上郷と同じだが、微妙な間の取り方や「とんつくと」等のリズムの抑揚に違いがある
8 中新田	8	下町囃子	トロツク ツクツクツ トンツクツ 「きーたー」	2024.7.7 諏訪神社での練習 2025.1.28 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	きざみ(「トロツクツクツクツ トンツクツ」)の部分を繰り返し、大太鼓をきっかけに掛け合いに進む 譜面に各部分の名称の記載はないが、国分の形式と類似	・掛け合いがある(トロツクトロツク) ・基本のリズムパターンは国分と同じだが、微妙な間の取り方や「トロツクツクツクツ」等のリズムの抑揚に違いがある
9 中河内	9	新囃子	テンテケレンテン テケテンテレンガ	2025.8.3 自治会盆踊り (JAさがみ有馬支店前)	【A地 Bカーチガイ】 打ち込み→ABA→ 一の玉(きざみ) →ABA→ 二の玉(乱調子) →ABA→ 三の玉(せめ) →ABA→切り ※採譜時の演奏では、冒頭の締太鼓を年少者が奏し、打ち込み後のABAを4回ほど繰り返した後、年長者と交代し速度を上げ、一の玉に入っている	・締太鼓、オード(大太鼓)、笛の譜面がある ・譜面には乱拍子ではなく「乱調子」と記載
10 杉久保	10	新囃子	スコトントロツク トントコントン	2024.8.4 盆踊り (豊受神社)	【A地 Bカワチガイ】 ぶっつけ→ABA→ ランビョウシ →ABA→ キザミ →A→きり	・強弱が譜面に記されており、メリハリがある
11 本郷下河内	11	新囃子	すことんとろすく とんとことんと	2024.9.4 活動 (下河内公民館)	【Aじ Bたま】 で→ABA→ きざみ →ABA→ 乱拍子(宮昇殿を挟む) →A→きり	・かわちがいの部分を「たま」と呼ぶ ・乱拍子の途中で〈宮昇殿〉を挟む
12 本郷新宿	12	新囃子	スコトントロスク トントコントン	2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	【A地 B玉】 つけ→ABABA→ 乱拍子(馬鹿囃子(ばかっぱやし)を挟む) →ABA→ 刻み →A→ 乱拍子 →ABA→切り	・かわちがいの部分を「玉」と呼ぶ ・乱拍子の途中で〈馬鹿囃子〉を挟む
13 本郷上町	13	新囃子	すことんとろすく とんとことんと	2024.9.10 活動(上町公民館) 2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	【A地 B玉(かわちがえ、かちがえ)】 付け→ABA→ 乱拍子 →(ABA→ 乱拍子 →※繰り返し)A→切り ※ 刻み・きざみあがり を入れなくて演奏	・「刻み」の譜面はあるが演奏しない ・左手のバチを左に払う動きがある
14 今里	14	新囃子	テンテケテッテン テケテンテレンガ	2024.8.4 自治会盆踊り (今里自治会館)	【Aじ Bかわちがえ(カッチガイ)】 ツケ→ABABA→ 一の玉 →ABABA→ 二の玉 →ABABA→ 三の玉 →ABABA→あがり	・田村囃子(平塚)の流れをくむ ・笛のリードで変化
15 社家	15	新囃子	てんでてけてん てけてんてれん	2025.1.26 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館)	【Aじ Bかんちがいがい】 ぶっこみ→ABA→ 一のたま →ABA→ 二のたま →ABA→ 三のたま →ABA→ 一のたま →ABA→ 二のたま →A→あがり	・田村囃子(平塚)の流れをくむ
16 中野	16	新囃子	スコトントロスク トントコントン	2024.1.28 叩き初め大会 (海老名市立総合福祉会館) 2024.4.14 中野八幡宮お祭り	【A地 Bカワチゲ】 ブツケ→ABA→ キザミ →A→ ランビョウシ(岡崎?を挟む) →ABA→ キザミ →A→ ランビョウシ(岡崎?を挟む) →A→きり	・らんびょうしの途中で〈岡崎〉のようなもの(馬鹿囃子か?)を挟む
17 門沢橋渋谷	17	新囃子	てんでてけてん てけてんてれんが	2025.7.3 渋谷神社例大祭 (渋谷神社)	【Aじ Bかわちがいがい】 ぶっこみ→ABA→ 一の玉(きざみ) →ABA→ 二の玉(乱びょうし) →ABA→ 三の玉(せめ) →ABA→あがり(きり)	・田村囃子(平塚)の流れをくむ ・大太鼓のリードで変化

01. 柏ヶ谷はやし保存会 〈屋台〉より 抜粋

2025年 1月26日 新春叩き初め大会
5月9日 見学 採譜

♩ = 214~224

〈地〉 R L R R L R L R L 〈おひやらひやら〉 「あー」

締太鼓

ト ロ ツ ク トン ツ ク ツ ト ロ ツ ク ツ ト ロ スツ トン ス コトン トロ ス ク ツ

太太鼓

〈おひやらひやら〉へ移るときはここから強くなる

やや詰まった感じ R L R L L R L

テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク 天 天 ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ケ 天 天

〈天天きた〉 「あー」 R L R L L R L

天 天 キ タ テ レ ス ク ツ テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク 天 天 ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ケ 天 天

〈引手（長いの）〉 「あー」

トン ス コトン トロ ス ク ツ ツ 天 天 ス ケ 天 テ レ ス ク ツ テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク

〈小さいの〉 R L R L L R L R L R L L R L

天 天 ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ケ 天 天 トン ス コトン トロ ス ク ツ ツ ス ケ 天 テ レ ス ケ 天 天

〈地に下る〉 「あー」

トン ス コトン トロ ス ク ツ ツ 天 天 ス ケ 天 テ レ ス ク ツ テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク

急に遅く→ R L R L R L R L 〈地〉へ→

テ レ ス ク ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク テン テン ス ケ 天 テ レ ス ク テ レ ス ク ス コトン ツ クツ 間 トロ ス ク ツ

02. 上今泉はやし保存会 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2025年1月26日 新春叩き初め大会 採譜

〈きざみ〉 ♩ = 172

縮太鼓 大太鼓

天 ツク ツ テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー

テ レ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー

テ レ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー テレ ツク ツ テレ ツク ツー ツー ツー

何度が繰り返す（笛が入り3回繰り返したら次へ） ※譜面には「テレツクツ」が2回ある

〈ひやう、ひやう〉

♩ = 172

天 ツク ツ テレツク 天天 テレトコ テレトコ 天天 天 ツク ツ テレツクツ 天 スケ 天 天 スケ 天天

天 天 天 ツツ テレトコ ツツ テレトコ テレトコ 天天 天 ツク ツ テレツクツ 天 スケ 天 天 スケ 天天

〈引手〉

天 ツク ツ テレツクツ 天 ツク ツ テレツクツ トロ 天 ツク ツ テレツク 天天

〈きざみ〉へ

テレトコ テレトコ 天天 天 ツク ツ テレツクツ 天 ツク ツ テレツクツ 天 スケ 天 天 スケ 天天

03. 国分嚙子保存会 〈屋庭〉より 抜粋

2024年7月1日 国分緑苑自治会館 採譜

[illegible]

04. 大谷はやし連 〈やたい〉より 抜粋

2024年4月14日 大谷神明社例大祭 採譜

〈やたいのじ〉

♩ = 192 (乗ってきたとき)

ややためる

L R R L L R R L R R

締太鼓 スコ トント ロツク トントコ トント

大太鼓

以降大太鼓のリズムは、奏者によって異なる

4

大太鼓のリズム (例)

音楽が切り替わるときのリズム

〈かいちがい〉

♩ = 154

スケ テン テン テン テン ドン ドン スケ テン テン テン テン ドン ドン テケ テン ドン ドン テケ テン ドン ドン

間

L R L R L R L R R L R L R L R

テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン スケ テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

〈らんびょうし〉

♩ = 186

4 回繰り返す

トロ ック ック ック ック トロ ック トン トン トロ ック ック ック トロ ック トン

2、4 回目は下のリズム

ソ - ダ ソ - ダ ソ - ダ ソ - ダ ス ケ テン テン テン テン テン テン テン

♩ = 144

7/4

スケ テン テン テン テン トン ス ク トン トン スッ トン トン テケ テン ドン ドン テケ テン ドン ドン

間

L R L R L R L R R L R L R L R

テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン スケ テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

〈きざみ〉

♩ = 196

3 回繰り返す

10/4

トロ ック ック ック ック トロ ック ック トロ ック ック ック トロ ック トン

間

L R L R L R L R R L R L R L R

8/4

トロ ック トロ ック トロ ック トン トロ ック トロ ック トロ ック トン スケ テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

05. 下今泉はやし保存会 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2025年1月26日 新春叩き初め大会 採譜

♩ = 186

縮太鼓

大太鼓

テン チ キ チ テ テ チ キ チ テ レ スク 何度が繰り返す 「ソ - ラ」 テン ツ ク テン ツ ク テン テン テン ツ ク

テン ツ ク スッ テン ス ケ テン テ レ スク テン ス ク スッ テン テ レ ト ロ テ レ ト ロ トン トン

テ レン テ レ スク テン ス ク スッ テン テ レ ト ロ テ レ ト ロ トン トン

オー ヒャラ ヒャ ラ チー ヒャラ ヒャ ラ オー ヒャラヒャ ラ チー ヒャラヒャ ラ テ レ ト ロ テ レ ト ロ テ レ ト ロ スッ トン

ス ケ テン テ レ スク テン ス ク スッ テン テ レ ト ロ テ レ ト ロ トン トン

テ レン テ レ スク テン ス ク スッ テン テ レ ト ロ テ レ ト ロ トン トン

06. 上郷はやし連 〈やたい〉より 抜粋

2024年 6 月28日 上郷自治会館 採譜

196

笛が入って3回目の「とつく」から強く打つ

縮太鼓

大太鼓

と と つく とん つく つ とん つく つ と と つく とん つく つ とん つく つ

笛が入って4回目の繰り返しで入り次に進む

間

と と つく と と つく と と つく と と つく とん す ことん と と つく つ とん す とんがとんす ことん とん つー 「きたっ」

間

とん とん つー と と つく つー と と つく と と つく と と つく とん す ことん と と つく

とん す とんが とん す ことん とん つつ とん す ことん と と つく つー とん す ことん と と つく つー

間

とん す ことん と と つく つー と と つく と と つく と と つく と と つく

とん す ことん と と つく つ とん す とんが とん す ことん とん つつ とん す ことん と と つく つ と と つく

← 2 回目は休み → 2 回目は下のリズム

とん つく つ とん つく つ と と つく

何度か繰り返し、冒頭の「とんつくつ」に戻る

07. 河原口はやし連 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2025年1月26日 新春叩き初め大会 採譜

[illegible]

08. 中新田はやし連 〈屋庭のぶっつけ〉より 抜粋

2025年1月26日 新春叩き初め大会 採譜

♩ = 190
〈きざみ〉

縮太鼓

大太鼓

ト ロ ツ ク ツ ク ツ ク ツ ク トン ツ ク ツ

ス コ トン ドン ド ロ スツ トン ドン ド ロ

ト ロ ツ ク ト ロ ツ ク ト ロ ツ ク ト ロ ツ ク トン トン ス コ トン ト ロ ツ ク トン ツ ク ス コ トン トン ス コ トン トン 「キ ター」

トントンツクツトロツクツツ トロツクトロツクトロツク トン トン ス コ トン トロツク トンツク ス コ トン トン ス コ トン トン

トン ス コ トン トロ ツ ク トン トン トロ ス コ トン トロ ツ ク ツ ク トロ ツ ク トロ ツ ク トロ ツ ク トロ ツ ク

トン トン ス コ トン トロ ツ ク トン ツ ク ス コ トン トン ス コ トン トン

トン ツ ク ツ ト ロ ツ ク トン ツ ク ス コ トン トン ス コ トン トン トン ツ ク ツ ト ロ ツ ク ツ

〈きざみ〉にもどる

09. 中河内はやし連 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2025年8月3日 自治会盆踊り（JAさがみ有馬支店前） 採譜

〈地〉

♪ $\div$ 248 (乗ってきたとき)

[illegible]

〈カーチガイ〉

「ソーダ ソーダ ソーダ ソーダ」

テ ケ テン テン テン テン (ドンドン) テ ケ テン テン テン (ドンドン) テン テン (ドンドン) テン テン (ドンドン)

テ ケ テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

テ ケ テン テン テン テン

〈一の玉（きざみ）〉

♩ = 276

4 回繰り返す

3 回繰り返す

テ ケ テ ケ テ ケ テ ケ テン テ ケ レン テン

テ ケ テ ケ テ ケ テ ケ テン テ ケ テン 「ハツ」

テ ケ テ ケ テン テ ケ テン テ ケ

テ ケ テン テ レン ガ テン テ レン

テ ケ テン テ レン ガ テン テ レン

ソーダ テン

ソーダ テン テン テン テ ケ レン テン

テ ケ テン テン テン テン テン テン

テ ケ テン テン テン テン テン テン

テ ケ テン テン テン

ガ

〈二の玉（乱調子）〉

♩ = 270

3 回繰り返す

[illegible]

〈三の玉（せめ）〉

♩ ÷ 276

[illegible]

10. 杉久保はやし連 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2024年8月4日 盆踊り（豊受神社）採譜

〈地〉

♩ = 198

L R R L L R R L R R

締太鼓 8/4 スコ トン ト ロツ ク トン ト コ トン トン

大太鼓 8/4

8/4

8/4

〈カワチガイ〉

8/4 スケ テン テン テン テン ドン ドン スケ テン テン テン テン ドン ドン テ ケ テン ドン ドン テ ケ テン ドン ドン

8/4

テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン スコ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

8/4

〈ランビョウシ〉

4 回繰り返す

8/4 ト ロ ック ック ック ト ロ ック トン トン ト ロ ック ック ック ト ロ ック ッ

8/4

2、4 回目は下のリズム

両手で

10/4 イウル イウル イウル イウル ド ド 6/4 ヒヤリ ヒヤリ ヒヤリ ヒヤリ ヒヤリ ヒヤ ヒヤ

10/4

6/4

間

8/4 スコ トン トン - トン トン トン スコ トン トン - トン トン テ ケ テン ドン ドン テ ケ テン ドン ドン

8/4

テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン スコ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

8/4

〈キザミ〉

6 回ほど繰り返す

8/4 ト ロ ック ック ック ック ツウ- ト ロ ック ッウ- 9/4 ト ロ ック ック ック ツウ- ト ロ ック トン トン 8/4

8/4

間

8/4 ト ロ ック ト ロ ック ト ロ ック トン トン ト ロ ック ト ロ ック ト ロ ック トン トン スコ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

8/4

11. 本郷下河内囃子連 〈屋台囃子〉より 抜粋

2024年9月4日 下河内公民館 採譜

〈じ〉

♩ = 216
L R R L L R R L R R

締太鼓 8/4 すこ とん とろす く とん と こ とん とん

大太鼓 8/4

〈たま〉

8/4 すこ とん とん とん とん (どんどん) すこ とん とん とん とん (どんどん) て け てん (どんどん) て け てん (どんどん)

間

てん (どん) てん (どん) てん (どん) てん (どん) すこ とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

〈きざみ〉

8回ほど繰り返す

10/4 とろ っ く っ とろ っ く っ く っ く っ 4/4 とろ っ く とん とん

8/4 とろ っ く とろ っ く とろ っ く とん とん とろ っ く とろ っ く とろ っ く とん とん

間

すこ とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

〈らんびょうし〉

4回繰り返す 〈宮昇殿〉

8/4 とろ っ く っ く っ く とろ っ く とん とん とろ っ く っ く っ く とろ っ く とん

4回目は下のリズム

4回繰り返す

とろ っ く っ く っ く とろ っ く とん とん とろ っ く っ く っ く とろ っ く とん

4回目は下のリズム

10/4 い う い う い う い う ど ど 12/4 ひやり ひやり ひやり ひやり ひやり ひや ひや

7/4 す こ とん とーん とん とん 8/4 とん す こ とん とーん とん とん て けてん て けてん

7/4 どん どん どん どん

間

てん てん てん てん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

間

すこ とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

12. 本郷新宿はやし連 〈屋台はやし〉より 抜粋

2025年1月26日 新春叩き初め大会 採譜

〈地〉

♩ = 226

締太鼓

8/4

スコ トン ト ロス ク トン ト コ トン トン

大太鼓

8/4

スロウ

《玉》

テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン スコ トン トン トン トン トン トン

〈乱拍子〉

4 回繰り返す

ト ロ ツク ツク ツク ト ロ ツク トン トン ト ロ ツク ツク ツク ト ロ ツク トン

3、4 回目は下のリズム

4 回繰り返す

ト ロ ツ ク ツ ク ト ロ ツ ク トン

イウ ル イウ ル イウ ル イウ ル

ド ヒャリ ヒャリ ヒャリ ヒャリ ヒャリ ヒャ ヒャ

Two staves of musical notation. The top staff has a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. It contains the following notes and rests: D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter). The bottom staff has a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. It contains the following notes and rests: D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), E4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter), D4 (quarter).

〈刻み〉

4回繰り返し出す



ト ロ ツク ツ ト ロ ツク ツク ツク ツ ト ロ ツク ツ ト ロ ツク トン トン

13. 本郷上町囃子保存会 〈屋台囃子〉より 抜粋

2024年9月10日 上町公民館 採譜

〈地〉

♩ = 246

L R R L L R R L R R

締太鼓 8/4 すこ とん と ろす く とん と こ とん とん

大太鼓 8/4

大太鼓は奏者のアレンジが入る（譜は一例）

〈玉（かわちがえ）〉

8/4

すことん とん とん とん とん（どん どん） すことん とん とん とん とん（どん どん） て け てん（どん どん） て け てん（どん どん）

8/4

てん（どん） てん（どん） てん（どん） てん（どん） すこ とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

間

間

〈らんびょうし〉

8/4

と ろ う く う く う く と ろ う く とん とん

4 回繰り返す

8/4

3, 4 回目は下のリズム

8/4

い う い う い う い う ど ど ひやり ひやり ひやり

7/4

ひやり ひやり ひや ひや

8/4

7/4

7/4

す こ とん とん とん とん

8/4

とん す く とん とん とん とん

7/4

て け てん（どん どん） て け てん（どん どん）

8/4

7/4

てん（どん） てん（どん） てん（どん） てん（どん） すことん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

間

間

〈刻み〉

譜面に文句の記載はあるが、通しでの演奏の記録がなく未採譜

14. 今里はやし保存会 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2024年8月4日 自治会盆踊り（今里自治会館）採譜

〈基本〉

♩ ≒ 216

R R L R L R L R L L

綿太鼓 8/4 テン テ ケ テッ テン テ ケ テ テ レン ガ

大太鼓 8/4 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

〈かわちかえ（カッチガイ）〉

7/4 テ ケ テ テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

7/4 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

〈一の玉〉

♩ ≒ 248

3回繰り返す

3回繰り返す

※原曲では「テンテ」が
もう1回ある

速くなる→

2回目から入る

♩ ≒ 216

8/4 テン ドン テン ドン テン ドン テン ドン

7/4 テ ケ テ テン テン テン テン テン

8/4 テン テン テン テン テン テン

〈二の玉〉

♩ ≒ 230

3回繰り返す

3回繰り返す

3回繰り返す

2回目は下のリズム

7/4 テ ケ テ ドン ドン テ ケ レ ドン ドン テン テン ドン テン テン テン テン

7/4 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

〈三の玉〉

♩ ≒ 260

6回繰り返す

※原曲では「テンテ」が
もう1回ある

8/4 テン テ ケ テ テン テン テン テン テン テン テン テン

8/4 テン テン テン テン テン テン テン テン

9/4 テン テ ケ テ テン テン ガ テン テン テン テン テン テン

9/4 テン テン テン テン テン テン テン テン

15. 社家はやし連 〈屋台〉より 抜粋

2025年1月26日 新春たたき初め大会 採譜

〈じ〉

♩ = 278

R R L R L R L R L

締太鼓 8/4

てん て け け けん て け けん て けん

大太鼓 8/4

てん て け けん て けん て けん

(じ〜かんちがいへ入るところ)

〈かんちがい〉へ入る→

〈かんちがい〉

て け てん てん てん てん てん てん てん てん

て け てん てん てん てん てん てん てん てん

て け てん てん

〈一のたま〉

♪ 218

3回繰り返す

3回繰り返す

とろ とろ すくんとん

とろ とろ すくんとん

とろ とろ すく

♪ 278

8/4

ん すく どん すく どん すく どん どん

て け て ん て ん が て ん て ん

て け て ん て ん が て ん て ん

て け て ん て ん が て ん て ん

8/4

ん すく どん すく どん すく どん どん

て け て ん て ん が て ん て ん

て け て ん て ん が て ん て ん

て け て ん て ん が て ん て ん

〈二のたま〉

♪ ♩ 218

3 回繰り返す

♩ 4/4 とろすくとろすく 8/4 ひととろすくとんとろすくとろすく 6/4 とろすくとろすくとん 8/4

♩ 4/4 - 8/4 - 6/4 - 8/4

♪ = 278

8/4

とろ とろ すく と

8/4

て け て て てん てん て け て て てん てん どんどん て け て て てん てん そうだ そうだ てん て け れっ てん

The second system of the musical score for 'The Little Boat' consists of two staves. The top staff continues the melody from the first system, starting with a half note G4, followed by quarter notes A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, and E4. The bottom staff continues the accompaniment, starting with a half note G3, followed by quarter notes A3, B3, C4, B3, A3, G3, F#3, and E3. The system concludes with a double bar line and a 4/4 time signature change.

〈三のたま〉

$\text{♩} \div 218$

H $\frac{4}{4}$ ひ ふ み よ い

H $\frac{4}{4}$

[illegible]

3 回繰り返す

どこぞん ど ろん が ぞん ど ろん

て け てん どん ぞん て け てん どん ぞん

てん てん ぞん ぞん てん てん ぞん ぞん

The musical score consists of two staves. The top staff has a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). It contains three measures separated by bar lines. The first measure has a whole note G4, followed by eighth notes A4-G4, Bb4-A4, C5-Bb4, D5-C5, E5-D5, F5-E5, and G5-F#5. The second measure has a whole note G4, followed by eighth notes A4-G4, Bb4-A4, C5-Bb4, D5-C5, E5-D5, F5-E5, and G5-F#5. The third measure has a half note G4, followed by quarter notes A4, Bb4, C5, D5, E5, F5, and G5. The bottom staff has a bass clef and a key signature of one flat. It also contains three measures. The first measure has a whole note G3, followed by eighth notes A3-G3, Bb3-A3, C4-Bb3, D4-C4, E4-D4, F4-E4, and G4. The second measure has a whole note G3, followed by eighth notes A3-G3, Bb3-A3, C4-Bb3, D4-C4, E4-D4, F4-E4, and G4. The third measure has a half note G3, followed by quarter notes A3, Bb3, C4, D4, E4, F4, and G4. The piece ends with a double bar line.

16. 中野囃子保存会 〈屋台ばやし〉より 抜粋

2024年1月28日 新春叩き初め大会 採譜

〈地〉

♩ = 240

8/4

綿太鼓

スコ トン ト ロ ス ク トン ト コ トン トン

8/4

大太鼓

R L R L R R L R R

少しためて打つ

〈カワチゲ〉

8/4

スケ テン テン テン テン ドン ドン

8/4

後の音をためて打つ
(2拍3連に近い)

8/4

ソウダ ソウダ ソウダ ソウダ

スケ テン テン テン テン テン テン

※文句の合わせ方要確認

〈キザミ〉

10/4

ト ロ ック ック ック ック ト ロ ック ック ト ロ ック ック ック ト ロ ック トン

4 回ほど繰り返す 〈キザミ上リ〉

8/4

ト ロ ック ト ロ ック ト ロ ック トン

問

スケ テン テン テン テン テン テン

※文句の合わせ方要確認

〈ランビョウシ〉

8/4

ト ロ ック ック ック ト ロ ック トン

4 回繰り返し、4 回目の最後少し遅くする 〈岡崎〉のようなものが入る

8/4

2・4 回目は下のリズム

8/4

ト ロ ック ック ック ト ロ ック トン

4 回繰り返す

8/4

2・4 回目は下のリズム

〈ランビョウシ上リ〉

8/4

イウ ル イウ ル イウ ル イウ ル

7/4

ト ロ ヒヤリ ヒヤリ ヒヤリ

8/4

ヒヤリ ヒヤリ ヒヤ

6/4

スコ トン トン トン トン

8/4

トン スコ トン トン トン

※録音不明瞭

3

3

テ ケ テン ドン テ ケ テン ドン

6/4

後の音をためて打つ
(2拍3連に近い)

8/4

テン ドン テン ドン テン ドン

スケ テン テン テン テン テン

スケ テン テン テン テン

※文句の合わせ方要確認

17. 門沢橋渋谷囃子保存会 〈屋台囃子〉より 抜粋

2024年7月13日渋谷神社例大祭（渋谷神社）採譜

〈じ〉

♩ = 244~264

R R L R L R L R L L

笛→

締太鼓

大太鼓

てん て け てっ てん て け てん て れん が

〈じ〜かわちがいへ入るところ〉

〈かわちがい〉へ入る→

てん て け てっ てん て け てん て れん が てん て け てっ てん

〈かわちがい〉

「そ〜だ そ〜だ そ〜だ そ〜だ」

て け てん てん てん てん ドンドン て け てん てん てん ドンドン て け てん ドコドン てん ドンドン てん ドン てん ドン てん ドン

て け てん てん てん てん てん てん て け てん てん てん てん てん てん て け てん て れん が

〈一の玉（きざみ）〉

3回繰り返す

3回繰り返す

て け て け て け て け てん て け てん て け てん て け てん て け

てん て け てん て け てん て れん が てん て れん て け てん て れん が てん て れん

ドン ドン ドン

てん てん てん て け てん て け てん てん てん てん て け てん てん てん てん てん てん て け てん て れん が

〈二の玉（乱びょうし）〉

3回繰り返す

とろ す こと ろ す ことん とろ す ことん とろ す ことん とろ す ことん

とん とん とん

てん てん てん て け てん て け てん て れん が

〈三の玉（せめ）〉

間

「ひ〜」 「ふ〜」 「み〜」 「よ〜」 「いつ」

て け て け てん て け てん て け てん て け てん て け てん て れん が てん て れん

3回繰り返す

ド コ ドン ド ロン ガ ドン ド ロン

て け てん てん てん てん てん てん て け てん てん てん てん てん てん て け てん て れん が

海老名市はやし保存連絡協議会規約

（目 的）

第1条 海老名市はやし保存連絡協議会（以下「協議会」という。）は、海老名市内の各地区はやし連（以下「単位はやし連」という。）相互の連絡調整及び活動を促進するとともに、後継者の育成を図ることにより海老名の囃子の保存と継承を目的とする。

（組織及び委員）

第2条 協議会は、単位はやし連で構成し、当該単位はやし連の代表者（以下「委員」という。）により運営する。

2 委員に変更が生じた場合は、当該単位はやし連は速やかに書面により会長に届け出るものとする。

（事 業）

第3条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 単位はやし連との連絡調整
- (2) 関係団体との連絡調整
- (3) 市内外の催し物への積極的な参加
- (4) その他目的達成に必要な活動

（役 員）

第4条 協議会は、次の役員を置く

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会 計 1名
- (4) 監 事 2名

（役員の任期）

第5条 役員の前任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

2 役員に欠員が生じた場合における後任役員の前任期は、前任者の前任期間とする。

（役員の前選出）

第6条 協議会の役員は、委員の前選により前選出、総会において承認を受けるものとする。

（役員の前職務）

第7条 会長は、協議会の業務を総括し、協議会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

3 会計は、協議会の会計を処理する。

4 監事は協議会の経理を監査する。

（会 議）

第8条 会議は、総会と役員会とする。

(会議の運営)

第9条 会議は、会長が招集し会議の議長となる。

2 総会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 事業計画及び予算の決定に関すること。
- (2) 事業の執行に関すること。
- (3) 事業報告及び決算承認に関すること
- (4) 規約の改正、廃止に関すること。
- (5) 役員の選出に関すること。
- (6) その他会長が必要と認める事項に関すること。

3 役員会は、会長、副会長及び会計で構成し、次の事項を協議する。

- (1) 総会の開催に関すること。
- (2) 協議会の運営に関すること。
- (3) 緊急事項の代議決に関すること。

4 総会は、委員の過半数以上の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって決定する。
この場合において可否同数のときは議長が決定する。

(会 計)

第10条 協議会の運営費は、負担金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

2 負担金は、単位はやし連一律6,000円とする。

3 協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(顧 問)

第11条 協議会に顧問を置くことが出来る。

2 顧問は、総会で推薦し会長が委嘱する。

(事務局)

第12条 協議会の事務局は、会長宅に置く。

(雑 則)

第13条 この規約に定めるほか、必要な事項はその都度協議会で定めるものとする。

附 則 この規約は、昭和53年6月8日から施行する。

附 則 この規約は、昭和58年6月29日から施行する。

附 則 この規約は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、令和7年7月25日から施行する。

海老名市デジタルアーカイブの構築について

1. 目的

本業務は、海老名市で所蔵する郷土の貴重な歴史的資料について、デジタル化による保存と活用を促進するため、デジタルアーカイブを構築するものである。郷土の歴史的資料の情報を後世に継承するとともに、誰もが時間や場所を問わず、デジタル化した歴史的資料について閲覧を可能にし、児童生徒の地域学習教材や市内外の生涯学習、研究資料等、幅広い世代や対象に、教育や学術的利活用の促進、海老名市の特徴や魅力を発信することを目的とする。

2. 履行期間

- (1) デジタルアーカイブシステム構築業務 令和7年7月4日から令和8年3月31日まで
- (2) システム公開利用開始 令和8年3月1日

3. 業務概要

- (1) 絵図、地図を撮影しデジタルデータ化する。
- (2) 市が提供するデータ及び(1)のデータから公開用コンテンツ、公開用画面を制作する。
 - ①公開用画面として、トップ画面、地図から探す画面、種類から探す画面、時代から探す画面、スペシャルコンテンツ画面、こども用（キッズページ）画面、操作説明画面、利用規定画面、その他必要な画面を制作する。
 - ②基本機能として、データ搭載機能、フリーワードでの検索機能、画像閲覧機能、管理機能、その他必要な機能を有する。
- (3) 市が提供するデータ及び撮影画像からメタデータを作成する。
- (4) 作成したメタデータをデジタルアーカイブに搭載する。
- (5) デジタルアーカイブ構築にあたり、関係者からの意見聴取を行うとともに、教職員向け海老名市教材化ワークショップを1回開催する。
- (6) デジタルアーカイブシステムの管理者用操作方法の説明と取り扱いマニュアルを作成する。
- (7) 作成したデジタルアーカイブコンテンツの周知用チラシデータを作成する。
- (8) クラウドサービスを利用し、デジタルアーカイブコンテンツを公開する。
- (9) 作成した成果物を指定する納品メディアに格納して納品する。
- (10) その他別表1の受託者が提案した事項を実施する。

4. 対象資料

別表2のとおり

5. 契約者

TRC-ADEAC株式会社 代表取締役 稲垣実
(プロポーザル方式による審査結果により選定)

6. 契約金額

3,957,382円

7. その他

本件は（公財）図書館振興財団の2024年度提案型助成採択事業である。
事業期間：令和7、8年度 助成総額：4,287,820円

別表1

1. 市域の白黒写真のうち、20点をカラー化しシステムに掲載する。
2. 絵図のうち1点について、翻刻を表示する。
3. プロモーション用動画（15秒、1080×1350ピクセル）を3本作成する。
4. PRTIMES・各種SNSで海老名市のデジタルアーカイブについて配信する。
5. みんなで翻刻に資料3点を登録する。

別表2

資料内容	数量	状態	備考
写真			
大正から平成の海老名市域の風景等	273 点	データ	
絵葉書			
大正から昭和の海老名市域関連絵葉書	25 点	データ	
絵双六			
江戸～昭和の絵双六	22 点	データ	
絵図・地図			
相模国図	1 点	紙（巻）	※要撮影デジタル化 約195×237cm
杉久保村絵図その1	1 点	紙（巻）	65×91
杉久保村絵図その2	1 点	紙（巻）	28×37
上河内村絵図	1 点	紙（巻）	65.4×93.7
恩馬本郷村絵図	1 点	紙（折）	116×103
海老名村地図	2 点	紙（書籍折込）	51×60
スペシャルコンテンツ			
(1) 温故館企画展えびな近代鉄道物語 パンフレット 関連資料（市内駅写真・沿線案内図など）	1 点 59 点	データ データ	12ページ 一部要再編 裏表あるものあり
(2) 温故館企画展江戸時代の旅 パンフレット 行程図 伊勢参宮日記帳 関連展示資料（道中記、通行手形、守り札、 キセル筒等民具、掛軸など）	1 点 1 点 1 点 17 点	データ データ データ データ	12ページ 冊子 冊子あり
(3) 相模国分寺跡・国分尼寺跡 パンフレット 発掘調査状況、出土品等の写真	1 点 50 点	データ データ	8 ページ
(4) 秋葉山古墳群 パンフレット 秋葉山古墳群発掘調査状況写真・土器	1 点 25 点	データ データ	12ページ 要再編
その他			
こども用（キッズ）ページ用資料として「えびな近代鉄道物語」「江戸時代の旅」こども解説パンフレットあり			

旧今福家住宅文庫蔵等保存調査修理設計について

旧今福家住宅文庫蔵については建物基礎の劣化により傾きがみられ、令和 6 年 8 月の地震でも瓦の破損があり、保存修理を要する状況である。また薬医門についても屋根の雨漏りや蟻害など傷みがあり、塀についても木材の傷みがみられる。

海老名市では「海老名市個別施設計画」を作成しており、教育施設（文化財施設）（令和 6 年 8 月改定）の計画では、旧今福家住宅については文化財保護の観点から詳細な調査が必要とされた。

このことから、「文庫蔵」、「表門及び塀」について今後の保存修理のための調査、設計を委託により行う。

1. 業務名 旧今福家住宅文庫蔵・表門保存調査修理設計委託

2. 対象

(1) 文庫蔵

- ・年代 弘化 4 (1847) 年
- ・構造 3 階建土蔵、切妻造棧瓦葺、外壁白漆喰（現状波板鉄板貼）
- ・規模 桁行 24 尺、梁行 15 尺

(2) 表門及び塀

- ・年代 嘉永 6 (1853) 年
- ・構造 門：薬医門形式、切妻造棧瓦葺、総檜造
塀：切妻造、亜鉛引鉄板葺
- ・規模 門：桁行 9 尺、梁間 5 尺
塀：25.9m

3. 設計概要

- ・現況調査報告書の作成
- ・過去の修繕履歴のまとめ
- ・改修時期・概算金額を記入した計画年表の作成（今後 10 年程度）
- ・修理設計図書の作成（別添業務内容）

4. 契約期間

令和 7 年 6 月 9 日～令和 8 年 1 月 5 日

5. 契約者

株式会社加藤建築設計 代表取締役 加藤昌義

6. 契約金額

9 4 6, 2 7 5 円

業務内容

設計業務の内容は、下表のⅠ～Ⅲに掲げる業務内容とする。

なお、作成図面の内訳及び縮尺は別表2の図面内訳を標準とし、その詳細は業務着手時に監督員と協議しなければならぬ。

Ⅰ 基本設計に関する業務

	項目		適用	備考
(1)	設計条件等の整理	① 発注者の要求等の確認	■	
		② 設計条件の変更等の場合の協議	■	
(2)	法令上の諸条件の調査及び関係機関との打合わせ	① 法令上の諸条件の調査	■	
		② 建築確認申請に係る関係機関との打合わせ	□	
(3)	上下水道、ガス、電力、通信等の供給状況の調査及び関係機関との打合せ		□	
(4)	基本設計方針の策定	① 総合検討	■	
		② 基本設計方針の策定と監督員への説明	■	
(5)	基本設計図書の作成		■	
(6)	概算工事費の検討		■	
(7)	基本設計内容の監督員への説明等		■	

Ⅱ 実施設計に関する業務

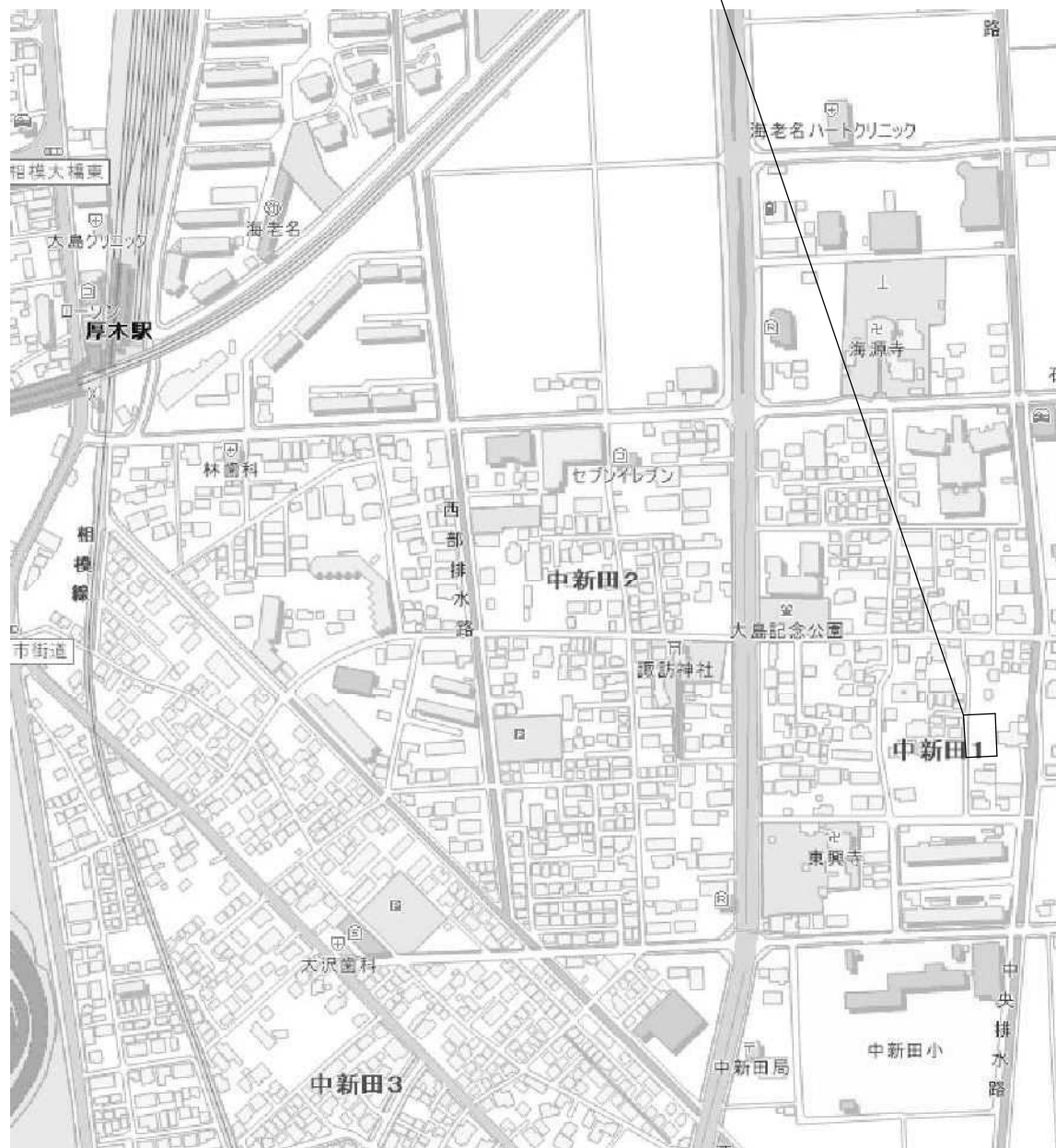
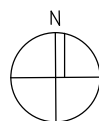
	項目		適用	備考
(1)	要求等の確認	① 発注者の要求等の確認	■	
		② 設計条件の変更等の場合の協議	■	
(2)	法令上の諸条件の調査及び関係機関との打合わせ	① 法令上の諸条件の調査	■	
		② 建築確認申請に係る関係機関との打合わせ	□	
(3)	実施設計方針の策定	① 総合検討	■	
		② 実施設計のための基本事項の確定	■	
		③ 実施設計方針の策定と監督員への説明	■	
(4)	実施設計図書の作成	① 実施設計図書の作成	■	
		② 建築確認申請図書の作成	□	
(5)	概算工事費の検討		□	
(6)	実施設計内容の監督員への説明等		■	

※設計意図伝達業務は本業務に含まない。

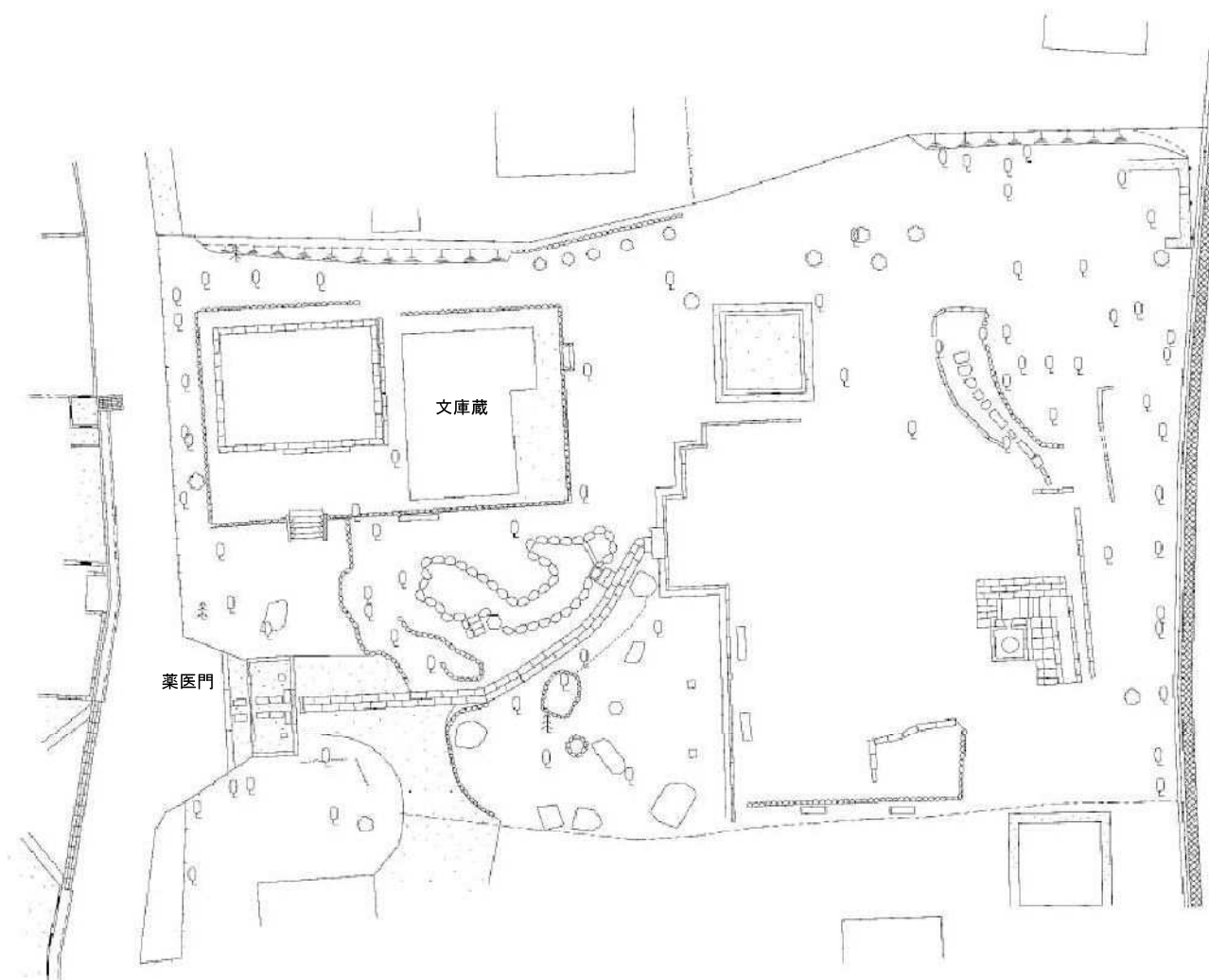
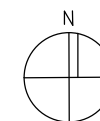
旧今福家 修繕・改修

場所	建設年代	改修年代	内容	工事名	業者名
表門	嘉永6 (1853) 年	明治27 (1894) 年	屋根餌下地替え (茅葺→瓦葺)		
		平成21 (2009) 年度	塀屋根塗装	今福薬医門公園柱根継ぎ工事及び塗装	株式会社八木建設
		平成22 (2010) 年	門柱根継、門柱塗装		
		平成22 (2010) 年	塀 (木部) 塗装		
塀		明治22 (1889) 年	屋根土、屋根板改造、瓦葺き直し、鋳屋根、漆喰直し		
		※大正関東大震災により被災、その後漆喰壁の周囲に波板鉄板を貼る。			
		平成17 (2005) 年度	1階床板張替え、建具修理	今福記念公園 蔵床修理工事	有限会社今福工務店
		平成18 (2006) 年度	外壁波板塗装、入口庇交換、漆喰補修	今福薬医門公園蔵外壁塗装等工事	オダホーム株式会社
			(外壁塗装工事、庇トタン張替工事、窓廻り漆喰補修工事、出入口部漆喰補修工事、出入口部塗装等工事)		
文書蔵	弘化4 (1846) 年	平成22 (2010) 年度	屋根瓦葺き替え (棟部の巴、のし瓦は再利用)		株式会社 加藤建築設計
		平成19 (2007) 年度	補修工事	今福薬医門公園池補修等工事	株式会社宮代園
			(撤去工・復旧・土工、池工、さく井工)		
		平成18 (2006) 年度	今福記念公園現況平面図測量	今福記念公園現況平面図測量委託業務	国武測量設計株式会社
		平成18 (2006) 年度	今福薬医門公園整備工事	今福薬医門公園整備工事	株式会社庭司苑
その他	池				
	測量				
	整備				

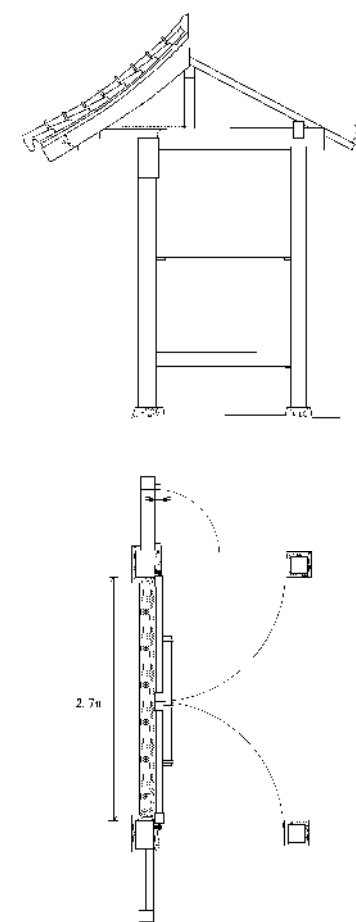
現場住所：海老名市中新田一丁目1495番5



案内図

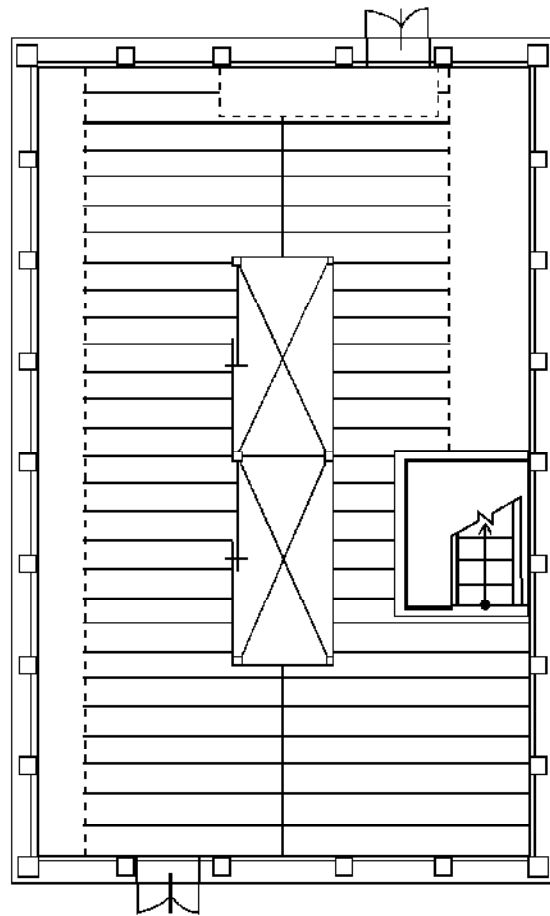
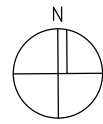


配置図

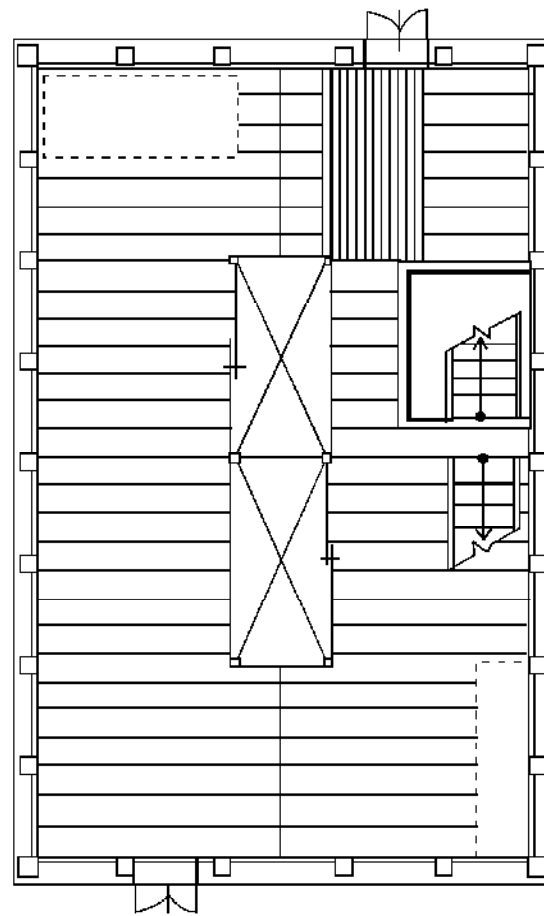


薬医門断面図・平面図

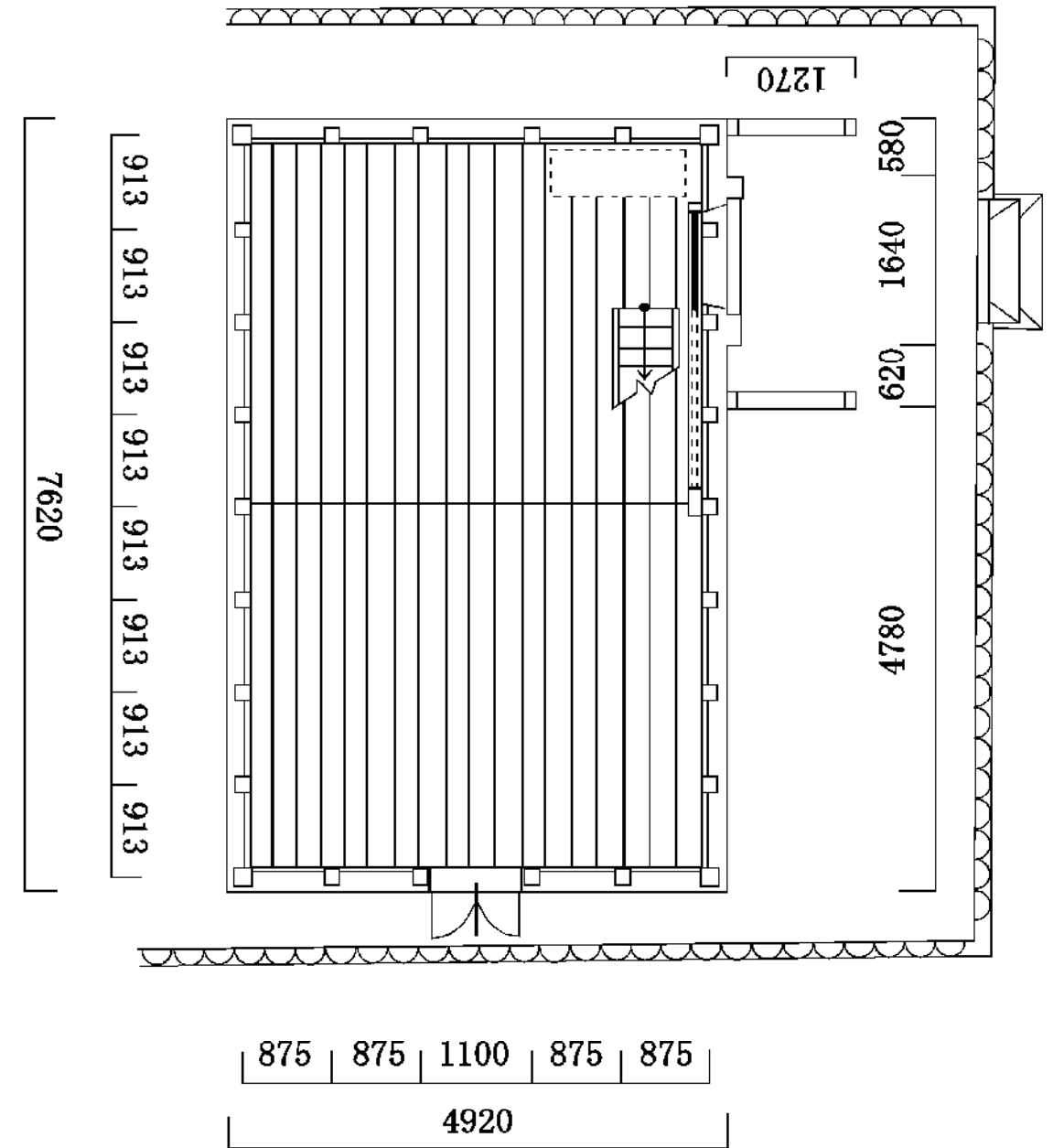




3 階平面図



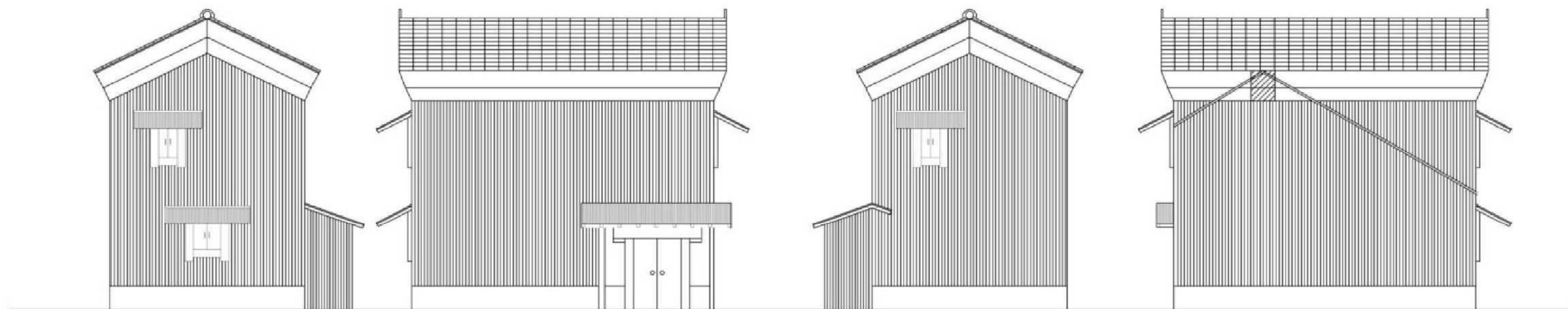
2 階平面図



1 階平面図

文庫蔵平面図





南側立面図

東側立面図

北側立面図

西側立面図

文庫蔵立面図



史跡相模国分寺跡保存活用計画の進捗について

R7.8月現在進捗

1. 計画策定の目的と経過	
計画の目的	○
保存活用計画策定にかかる組織と経過	○
他計画との関係	○
計画の範囲	○
計画の実施	○
2 史跡の概要	
史跡の名称・種別・所在地・管理団体	○
指定告示、説明、範囲図	○
指定に至る経緯、指定理由、周辺環境、調査成果、整備状況	△
3. 史跡の本質的価値	
史跡の本質的価値の明示	○
新たな価値評価の視点の明示	○
構成要素の特定	○
4. 現状と課題	
保存（保存管理）の現状・課題	○
活用の現状と課題	○
整備の現状と課題	○
運営・体制の現状と課題	○
5. 大綱・基本方針	
望ましい将来像	○
基本方針（保存管理、活用、整備、運営・体制）	○
6. 保存（保存管理）の方向性	
方向性、方法	○
・現状変更及び保存に影響を及ぼす行為の取り扱い方針・基準	×
・史跡指定地外の直近周辺環境の構成要素の管理手法	○
・公有地化方針	○
7. 活用の方向性	
方向性	○
方法（学校教育／社会教育／地域活用）	○
8. 整備の方向性	
方向性	△
方法	△
9. 運営・体制の方向性	
方向性・方法・体制	○
10. 施策の実施計画の策定・実施	
工程期間	△
短期・中長期・総括表	△
11. 経過観察	
方向性	○
方法	○

※各図表等について、作成調整中

令和6年度第1回相模国分寺跡保存活用部会 議事録

開催日時等	令和6年12月23日（月）13:30～16:10 於：海老名市役所 703 会議室
議 題	(1) 相模国分寺跡保存活用部会長の選出等について (2) 史跡相模国分寺跡保存活用計画について (3) 史跡相模国分寺跡保存活用計画構成と内容 (4) 検討事項
出席委員	青木敬、加藤仁美、長沢可也、鹿野陽子、海老澤模奈人 5名全員出席
その他関係者	オブザーバー：神奈川県教育委員会文化遺産課世界遺産登録推進グループ 主幹 谷口肇
傍 聴 者	無
事 務 局	教育次長 吉川浩 教育部参事兼教育総務課長 西海幸弘 教育総務課文化財担当課長 押方みはる 教育総務課主事 和田山千暁、酒井暢人

【議事概要・主な意見】

・相模国分寺跡保存活用部会長の選出等について

部会長：青木敬委員、職務代理：海老澤模奈人委員

主な意見

【本質的価値・新たな価値評価の視点の明示】

- ・全国の国分寺跡と比較して相模国分寺跡はこうだというのがもう1点ほしい。
- ・周辺の奈良時代の遺構からその中心となる相模国分寺跡が理解できるような記載を。
- ・相模国分寺は国府と離れて置かれたが、その理由について、研究成果を盛り込む。
(各郡の有力者の動向と関わること)
- ・金堂跡、講堂跡の基壇外装はスロープ状の石貼で地域的な特性があり、本質的価値となる。
- ・全国、県内で最初の史跡で、国分寺跡の中でも古くから重要遺跡と認識されていたことを入れる。

【計画の構成】

- ・大綱・基本方針の前に現状と課題を置くほうがスタンダード。これまでの方針に沿って行ってきた整備等を現状課題に入れて、その上で大綱・基本方針としたほうが良い。

【大綱・基本方針】

- ・大綱の1点目で、歴史の1コマというとらえ方をしているが、歴史の重要な証として、ユニークな点を唯一無二の存在としていえるように記載を。

令和6年度第2回相模国分寺跡保存活用部会 議事録

開催日時等	令和7年2月27日（木）9:30～12:00 於：こどもセンター201 会議室ほか
議 題	（１）第1回会議検討事項に係る対応等 （２）基本方針・各方向性等について （３）工程期間について （４）伽藍東側地区の現地確認・意見交換
出席委員	青木敬、加藤仁美、長沢可也、鹿野陽子、海老澤模奈人 5名全員出席
その他関係者	オブザーバー：神奈川県教育委員会文化遺産課世界遺産登録推進グループ 主事 萩原滉
傍 聴 者	無
事 務 局	教育部参事兼教育総務課長 西海幸弘 教育総務課文化財担当課長 押方みはる 教育総務課主事 和田山千暁、酒井暢人

主な意見

【保存（保存管理）の現状と課題】

- ・発掘調査に関するものを「2、現状と課題」に追加する

【基本方針の活用部分】

- ・史跡の活用により、新たな創造につながる、海老名の将来、発展、将来像を作り出す表現を

【保存管理の方向性】

- ・相模国分寺跡等の史跡をコアにした景観を目指すことに対する積極性を表現する。
- ・3「周辺地域や景観との調和をはかる」の表現について一考を。

【活用の方向性】

- ・学習機会の提供について、子どもに関心を持ってもらうような形や、子ども自身が発信する側になるような方策も検討する。
- ・史跡だけではなく、周辺も含めたまちづくりや景観づくりについて発信していくことをイメージできると積極性が出てよい。

【整備の方向性】

- ・建物等を復元しない理由として、学術上の担保が難しいことと、財政的負担が大きい点について併記する。

【工程について】

- ・まちづくりとの連携については継続とする。
- ・その他、文言の修正について意見あり。

第3章 史跡の本質的価値

第1節 史跡の本質的価値の明示

史跡相模国分寺跡は、大正10(1921)年の史跡指定以降、史跡指定地内外では多くの発掘調査により、新たな遺構の発見など成果が得られてきた。相模国分寺跡は、諸国国分寺跡にみられる共通的な要素である堂塔を備えながら、特有の建物配置や規模、寺域、瓦の意匠等を有している。

また相模国内外の古代遺跡や古代寺院跡の考古学的調査成果とあわせ、古代相模国の地域社会の様相をより立体的に知りうる歴史的価値を有する史跡である。以下に史跡相模国分寺跡の本質的価値についてまとめる。

1. 国分寺建立の詔を契機とした国家仏教の拠点であり、律令体制による地方支配の実態として相模国特有の国分寺の造営を理解することができる。

相模国分寺跡は金堂と塔が東西に並び、その北側に講堂を配し、中門から回廊・築地塀で囲む伽藍配置となっている。主要伽藍の北側に僧房や付属建物を配し、寺院地は溝で区画されている。金堂・塔・講堂の配置は法隆寺に似た伽藍配置であり、国分寺では下総国分寺跡に類例が認められるが、国分寺としては古い伽藍配置を選択している。

金堂、講堂は大きく、軒が深い建物であり、武蔵国分寺と類似する。一方で金堂跡、講堂跡の基壇外装は傾斜をもって川原石を古墳の葺石状に川原石を貼り付けた独特かつ希少な例である。また出土瓦の総量は少なく、総瓦葺ではない可能性もあり、国分寺の多様性を知ることができる。

立地としては、相模川東岸の高座郡に設置され、国府が所在する相模川西岸の大住郡とは郡が異なり、双方は距離にして約14キロと離れている点が際立った特徴である。このことは大住郡と高座郡の郡領が同じ壬生氏であったことや、東海道ルートの変更にみるように交通の要衝であったことが要因として挙げられ、古代の地域社会を考える上で重要である。

また国分寺創建期瓦は約18キロも離れた、三浦郡の乗越瓦窯から供給され、国分寺創建以前の千代廃寺等へ供給された瓦も出土し、複数の郡によるかかわりがうかがえる。

2. 塔・金堂・講堂をはじめ、国分寺としての主要堂塔遺構が明らかであり、良好に残されている。

伽藍中枢部に塔跡、金堂跡、講堂跡の基壇及び礎石が残され、地上から目視により遺構を確認することができる。中門跡の基壇は明瞭ではなかったものの、南面の回廊跡では礎石が確認され、推定経蔵跡、推定鐘楼跡も掘込地業により存在が確認されている。僧房跡は東西に長い建物で、柱穴が良好に残る。

中枢伽藍の北側には寺院に関連すると考えられる北方建物跡2棟が確認されており、古代官営寺院全体の建物配置を知ることができる。

3. 諸国国分寺の中でも規模が大きい金堂・講堂や七重塔の遺構、また出土遺物から、高度な土木・建築にかかる技術を知ることができる。

塔・金堂・講堂については掘込地業と版築により基壇が構築され、それぞれに愛甲郡が主な産地

とみられる巨大な礎石が据えられている。相模国分寺跡の東側で確認されている逆川跡は瓦等資材運搬のための運河であったとみられている。

塔跡からは金銅製水煙や鉄釘などの金属製品が出土しているが、僧房跡などでは鍛造片や鉄滓、銅滓がみられ、寺院地周辺で金属加工が行われていたこともうかがえる。

4. 西に眺望の開けた河岸段丘上に立地し、詔による「好处」としての環境を知ることができる。

平塚市で確認されている国府域からは離れた立地であるが、宝亀2（771）年に武蔵国の東海道に編入に伴い改められた官道に近く、交通の利便性に優れた場所である。加えて平坦で安定した地盤である場所を選択したことがわかる。

5. 発掘調査の成果により、堂塔の造営から補修・再建等の変遷を追うことができる。

塔跡では基壇外装の補修や、周辺の礫敷き等から2回の補修または建て替えを含む改修があり、3時期が想定されている。僧房跡についても柱穴の掘り直しや、柱の抜き取り痕と礎石状の河原石が据えられていることから、3期の遺構（2度の建て替え）が想定されている。

一方で講堂の基壇北側は平安時代後期には溝状遺構で削られるなど、主要建物の荒廃の様子がうかがえ、古代官営寺院の消長を知ることができる。

6. 古代の相模国分寺の実態とともに古代の相模国内の様相を具体的にとらえられる遺跡である。

相模国分寺の創建期から改修・再建期の瓦の供給体制や、主要堂塔に使用された礎石など寺院建立資材の調達は、国を挙げての事業であったことを示している。一方で9世紀後半には、軒瓦の意匠は相模国分寺特有のものから、大住、高座郡域共通の意匠に変化し、瓦の生産供給体制の変化とともに、国分寺に対する社会的意識の変容もうかがえる。相模国分寺跡の調査成果は、相模国内や周辺地域の考古学的調査との比較検討などにより、古代地域社会の様相をより立体的に浮かび上がらせている。

第2節 新たな価値評価の視点の明示

本節では、前節で挙げた本質的価値に加え、立地・周辺環境やその調査研究史などの要素から新たな視点での価値評価についてまとめる。

1. 海老名の文化財保護史の出発点である

明治から大正時代にかけて、郷土史家の中山毎吉や矢後駒吉を中心に相模国分寺跡の保存運動や調査が行われた。相模国分寺跡は、大正8（1919）年制定の史蹟名勝天然紀念物保存法により、大正10（1921）年に全国初、神奈川県内初の国史跡として指定された。同時に指定された全国の国分寺跡は8件で、相模国分寺は礎石の位置から伽藍配置が注目された。海老名村では主要伽藍部の用地買収や国分寺だけでなく周辺にある遺跡などへの標柱の設置、温故館の建設などが行われるなど郷土の歴史を考えていく機運が高まった。国史跡指定の原動力となった中山毎吉らの業績は『相模国分寺志』としてまとめられ、現在でも相模国分寺や海老名の郷土史研究には欠かせない情報を伝える1冊となっている。

さらに昭和 40～41（1965～66）年度には文化財保護委員会（現文化庁）による発掘調査が行われ、相模国分寺跡の建物配置や規模、構造等が明らかになった。なお、国営発掘された寺院跡としては、相模国分寺跡以外に無量光院跡・四天王寺境内・末松廃寺・法隆寺若草伽藍跡と限られ、いずれも古代史を語る上で不可欠な寺院である。つまり、相模国分寺跡が古代史を語る上で欠かせない存在として、考古学や建築学の分野などで早くから重視されていた遺跡であったことが窺える。

この一連の流れは、遺跡の保存と史跡・文化財のネットワーク構築という現在にもつながる整備事業構想であったと考えられ、海老名の文化財保護の原点がこの相模国分寺跡にあるといえる。

2. 海老名市の郷土学習の拠点である

史跡相模国分寺跡は、海老名駅東口、北口から徒歩10分程度と交通の利便性がよく、西側にはガイダンス施設としての役割を担う海老名市立郷土資料館『海老名市温故館』がある。周辺には古代相模国分寺の法灯を継ぐ「東光山国分寺」や、その参道にある「海老名の大櫓」があり、史跡地の東側には相模国分寺の建立と密接に関連していたと考えられる「逆川跡」がある。さらに500mほど北には「史跡相模国分尼寺跡」や、重要文化財「木造千手観音立像」等を所蔵する「瑞雲山龍峰寺」などがあり、海老名の歴史を学ぶ拠点となっている。

3. 都市空間における憩いの場を提供している

史跡相模国分寺跡は、市の中心部・駅から至近であり、住宅が密集している地域の中で整備済みの面積だけでも約 24,000 m²（令和 6 年 12 月現在）と広大な敷地を有し、全国的にみても稀有な国分寺跡と言える。「空が広く気持ちの良い空間」として史跡を訪れる人は多く、見学だけではなく、子どもたちの遊びの場、地域活動の場や、イベント会場など、多様な利活用がされている。

周辺が宅地化した中で、広々とした空間で歴史を感じることができる貴重な空間となっている。

4. 神奈川県内の古代史を語る上での中心的な存在である

神奈川県内には 2015 年に下寺尾官衙遺跡群、橘樹官衙遺跡群がともに国史跡に指定され、平塚市域に広がる相模国府域の様相も長年の調査により明らかになってきた。この他にも県内には古代寺院跡、集落跡等古代史を語る遺跡が数多くある。相模国分寺跡の北側には相模国分尼寺跡があり相模国内の国家仏教の拠点であった証左となっている。周辺には、寺院の資材運搬に使われたとみられる逆川跡や、古代の官道跡とみられる道路遺構が確認された望地遺跡、高座郡の在地有力氏族である壬生氏の拠点とみられる大谷向原遺跡・本郷遺跡等がある。国分寺跡周辺の集落遺跡である国分尼寺北方遺跡や国分南原西遺跡等からは瓦や仏教連遺物の出土も見られ、鎮護国家思想により設置された相模国分寺から仏教が周辺へと広まる様子がうかがえ、相模国の古代史を語る上でも重要かつ中心的な遺跡となっている。

第5章 大綱・基本方針

第1節 望ましい将来像

相模国分寺跡は古くから認知されており、明治・大正期には中山毎吉らが中心となって保存活動が行われました。戦後も町や県・国による発掘調査が行われ遺跡の再評価が行われ、さらに平成に入ると遺構の復元や環境整備工事を行い、現在見られるような姿になった。

近年の史跡相模国分寺跡の利活用状況としては、史跡そのものの見学や教育委員会で実施する活用事業以外にも地域住民の日常的な憩いの場などとして、平日でも来訪者が絶えない、利活用の多い史跡である。

本節では、今後も遺跡の保存と継承を第一とし、海老名市を代表する歴史的遺産として、望ましい将来像について次のとおり定める。

大 綱 ～望ましい将来像～

○我が国の歴史の一端を示す重要な証として、また古代相模国ならではの特色を持つ相模国分寺跡を恒久的に保存し、次世代に継承していきます。

○海老名市の誇り、地域の宝として、見学、観光、学習だけでなく、誰もが行きたくなる、行ってみようと思える史跡であり続けます。

第2節 基本方針

基本方針

保存
(保存管理)

- ・相模国分寺跡を構成する遺構を確実に保存する。
- ・史跡の全体像の解明に努め、価値を広く共有する。

【方向性】

1. 史跡地全体の公有地化
2. 発掘調査資料の保管、展示及び成果の公表により学術的進展の寄与に努め、本質的価値の深化に努める。
3. 周辺地域や景観との調和をはかる。
4. 史跡地の適切な維持管理を行う。
5. 史跡指定地外での重要遺構発見時は遺構保存方法について検討する。
6. 史跡の現状変更許可基準を明確化する。

活 用

- ・ 学習的活用を促進する。
- ・ 多くの人が集い地域に活気をもたらす活用事業を推進する。
- ・ 海老名市を代表する歴史的資産として相模国分寺跡の情報発信に努める。
- ・ 活用促進により、新たな文化的創造につながることを意識する。

【方向性】

1. 郷土学習の拠点として環境整備につとめ、学習機会を提供する。
2. 発掘調査の成果等から、相模国分寺創建の様子や時代背景など、わかりやすく理解できる資料を整備する。
3. 海老名市の歴史的なシンボルとして積極的な情報発信を行う。
4. 地域住民や関連組織と連携し、相模国分寺跡ならではの活用事業を促進する。

整 備

- ・ 相模国分寺の歴史や特徴を理解できるように表現する。
- ・ 歴史的資源としてふさわしい景観の創出と、市街地における貴重な緑地として環境を保全する。

【方向性】

1. 発掘調査成果に基づき、遺構の適切な表示、修景を行う。
2. 案内、説明板は、方針に従って設置、更新を行う。
3. 植栽の位置は景観に配慮し、古代寺院や海老名市に相応しい樹種を選定する。
4. 活用性、安全性に配慮した整備を行う。

運営・体制

- ・ 保存活用を担う人材の確保育成を図る。
- ・ 関係する組織や地域住民との連携により、安定した保存管理体制を構築する。

【方向性】

1. 庁内体制の整備
2. 地域や関連組織との連携

令和 6 年度 文化財事業実施結果

【温故館維持管理経費】

○企画展「発掘された海老名のお宝 ～この 10 年の発掘調査成果から～」

第一弾：R6. 7. 5～R6. 9. 16 来館者 2, 376 名

第二弾：R6. 9. 13～R6. 12. 1 来館者 3, 216 名

合計：5, 592 名

平成 25 年から令和 5 年の間に市内で行われた発掘調査について、遺跡と遺物を紹介した。

○ミニ展示「龍峰寺千手観音像のひみつ
～国指定 100 周年記念～」

R6. 3. 14～5. 11 来館者 2, 947 名

龍峰寺千手観音立像は、国宝に指定から 100 周年を記念し、千手観音立像を紹介するパネルを展示した。



温故館企画展展示の様子

○温故館たてもの見学会

R6. 11. 2、11. 3 参加者 18 名

○展示資料貸出 神奈川県教育委員会、福祉政策課

○維持管理 建物清掃、警備、空調修理、エレベーターバッテリー交換修理、
ロールスクリーン修理、雨漏り修理、窓ガラス修理

○寄贈資料 ツノダル、ハンダイ

【歴史資料収蔵館維持管理経費】

○ミニ収蔵品展

清水登美子家資料の展示、ホームページで公開した。

・「江戸後期から明治期の双六」

収蔵資料の江戸後期から明治期の双六について展示公開した。

R6. 4. 25～6. 30

・「国芳・芳虎が描いた鎌倉武士ー浮世絵・版本からー」

所蔵資料の浮世絵師歌川国芳・芳虎が描いた鎌倉武士の浮世絵ほか、武勇に秀でた武将を紹介した版本を展示公開した。

前期：（頼朝編）R6. 10. 25～12. 27

後期：（義経編）R7. 1. 4～3. 2

○デジタル展示

上記ミニ収蔵展についてはデジタルでも資料を公開した。

○寄贈資料 地券など文書類

○維持管理 建物清掃、警備、水道メーター交換修理

○資料整理 清水家資料、切図（旧公図）写真など



収蔵品展の様子

【文化財保護事業費等】

○市指定重要文化財などへの助成支援等

市指定重要文化財補助金（有形文化財等 20 件、無形民俗文化財 1 件計 600 千円）

はやし保存連絡協議会への補助金（150 千円）

○市文化財保護審議会

R6. 12. 17 郷土芸能「海老名の囃子」調査状況について、相模国分寺跡活用計画について
相模国分寺跡保存活用部会

R6. 12. 23 相模国分寺跡活用計画構成と内容、検討事項について ほか

R6. 12. 27 第1回会議検討事項に係る対応について ほか
伽藍東側地区現地確認・意見交換

○文化財防火デー

R7. 1. 31 本覚寺

○文化財調査

無形民俗文化財(お囃子)、仏像彫刻

○スライド資料等デジタル化

民俗関係スライド等約 950 点

郷土芸能、発掘調査などビデオのデジタル化

○史跡等の維持管理

史跡相模国分寺跡・史跡相模国分尼寺跡・史跡秋葉山
古墳群・今福薬医門・浅井の水等の草刈、樹木剪定／
有馬のはるにれ等害虫駆除／海老名の大櫓維持管理／
秋葉山古墳群枯損木伐採

○天然記念物保存修理

海老名の大櫓：剪定、新規支柱設置、既存支柱修理

○ふるさと文化財ボランティア

今福薬医門公園のボランティア清掃



本覚寺 放水訓練



海老名の大櫓修理状況

【文化財活用事業費等】

○えびな文化財探求舎体験講座

①石器づくり R6. 7. 30 参加者：18 名

②勾玉づくり R6. 7. 31、8. 1 参加者：88 名 ※かながわ考古学財団との連携

○相模国分寺跡あそびのひろば

4、5、10、11、12、3月の6回開催(9月は雨天中止)

相模国分寺跡 参加者約 300 名～500 名

その他平日に不定期開催

○「わが街の推し遺跡!!～聞いて！みて!!こんなにすごい

私たちの街の歴史～」推し遺跡パネル展

ロマンスカーミュージアムにて県内 19 遺跡

の紹介パネル、海老名市ほか 6 市の出土品ミニ展示

R6. 11. 6～11. 18 ※11. 12 休館

主催 (公財) かながわ考古学財団

共催 海老名市教育委員会、小田急電鉄株式会社、

小田原市教育委員会、

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団



ロマンスカーミュージアム展示の様子

○発掘調査現地見学会

「国分宿遺跡・相模国分寺跡第 28 次調査見学会」

R6. 11. 16 参加者 244 名

協力 パスコ株式会社、住友林業株式会社

○文化財案内板等整備

三日月井戸、独鈷井戸案内板設置、

海源寺鐘楼門案内板板面貼替、

海老名氏霊堂案内板設置

○文化財ガイド（海老名ガイド協会に委託）

ー海老名の近世ー

・「目久尻川沿いの国分村」

R6. 6. 1 参加者 36 名

・「相模川沿いの門沢橋村と中野村」

R6. 10. 6 参加者 29 名

・「永池川沿いの本郷村」

R6. 12. 7 参加者 20 名

・「目久尻川沿いの柏ヶ谷村」

R7. 3. 30 参加者 23 名

○郷土芸能の公開

・新春はやし叩き初め大会開催

R7. 1. 26 参加・来場約 600 名

・ささら踊りの出前授業

R6. 12. 18 杉本小学校

・相模ささら踊り大会出演

R6. 7. 24 厚木市荻野運動公園

○樺ロータリークラブ

・海老名の大樺下草刈りボランティア

R6. 6. 6/9. 12 （2 回/年）

○その他

文化財ガイド養成講座（海老名ガイド協会と共催）

海老名ガイド協会嶋崎家住宅見学、勉強会



発掘調査現地見学会の様子



文化財ガイドの様子



新春はやし叩き初め大会の様子

【埋蔵文化財調査事業費】

○開発工事等の前の試掘等調査 17 件

（望地遺跡、逆川跡、大谷下浜田遺跡、国分尼寺北方遺跡、大谷向原遺跡、中野桜野遺跡、国分宿遺跡、上の台遺跡、御屋敷遺跡、本郷中谷津遺跡）

○個人住宅建築に伴う発掘調査 2 件

（大谷市場遺跡、国分宿遺跡）

○発掘調査報告書刊行業務

『太鼓塚古墳（上浜田第 5 号墳発掘調査報告書）』刊行



大谷市場遺跡
溝状遺構発掘調査状況

【相模国分寺跡整備事業費】

○ 史跡相模国分寺跡遊歩道整備

- ・ 史跡相模国分寺跡北側買収地安全施設設置工事
海老名市国分南一丁目 1895 番 2
安全施設設置（車止設置）、目隠し用シート設置

・ 史跡相模国分寺跡遊歩道工事

- 海老名市国分南一丁目 1895-1、1895-2
案内板併用柵設置

○ 史跡相模国分寺跡用地測量委託

- ・ 史跡地管理のための借地範囲測量



令和 7 年度 海老名市教育委員会教育総務課文化財係事業概要

事業名	事業内容	期日	事業費 単位：千円 (前年度予算)
温故館 維持管理事業費	○市民の郷土意識・郷土愛を育むとともに歴史学習の場として郷土資料館「温故館」で資料の展示公開を実施する。 ○企画展やパネル展示等を実施する。 ・「龍峰寺千手観音像のひみつ」 ・企画展「出征兵士の御守」 ・かながわの遺跡展「あつまれ！！かながわのはにわ（仮）」 ○施設を適切に維持管理する。 ○小中学校の見学や学習対応 ○「奈良時代の相模国分寺」VR公開	通年 3月～5月 8月～10月 12月～1月 適宜 通年	16,542 (14,747)
歴史資料収蔵館 維持管理事業費	○市史編さん事業で収集した資料や公文書を整理保存し、閲覧可能資料の整備、公開を行う。 ○ミニ収蔵品展「海老名町・有馬村合併 70 周年記念展示」を実施する。 ○施設の適正な維持管理を図る。	通年 7～9月 年度内	7,602 (6,017)
文化財保護 事業費	○市内の文化財を適切な保護と指定文化財等の審議を行うために文化財保護審議会会議、部会（相模国分寺保存活用部会）を開催する。 ○市指定重要文化財への助成支援をする。 ○江戸時代から伝承されるまつり囃子や大谷歌舞伎、ささら踊りの保存伝承と活用を図るために各種助成等支援する。 ○県指定天然記念物「海老名の大櫓」、「有馬のはるにれ」の保存修理、維持管理を行う。 ・「海老名の大櫓」支柱追加、建仁寺垣の補修 ○指定・登録基準に基づき、保存価値のある文化財を調査、指定・登録する。 ・海老名の祭囃子 ○ふるさと文化財ボランティアの協力を得ながら今福薬医門公園を維持管理・活用する。 ○史跡相模国分寺跡、史跡相模国分尼寺跡、史跡秋葉山古墳群を歴史資産として利活用するため、草刈	各 2 回程度 通年 通年 適宜 適宜 通年 適宜	13,051 (11,706)

	や、破損個所の修理等、軽微な整備、適切な維持管理を行う。		
文化財活用 事業費	○史跡、文化財や出土遺物等を活用し、文化財保護意識の高揚、郷土愛の醸成のための事業を実施する。 ・体験教室の開催（かながわ考古学財団との連携） ・文化財ガイドの実施（海老名ガイド協会に委託） ・文化財ガイド養成講座（海老名ガイド協会共催） ・秋葉山古墳群国指定 20 周年記念講演会の開催 ・文化財等の案内板の整備・補修を行う。 ・「相模国分寺 360」アプリ活用 ・相模国分寺跡で遊具展開事業（「あそびのひろば」）を実施 ○相模ささら踊り大会への参加 ○文化財収蔵庫を適切に管理する。 ○えびな郷土芸能大会開催 ○はやし叩き初め大会開催 ○市で所蔵する古文書・書画類、古写真、民俗資料、考古資料等について、デジタルアーカイブを構築する。	7 月 5, 10, 12, 3 月他 6 月 7 月 13 日 通年 通年 通年 7 月 通年 10 月 25 日 1 月 25 日 通年	7, 165 (1,439)
埋蔵文化財調査 事業費	○市内 89 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内で行われる土木工事等について適切な指導を行うため試掘調査等を実施し、埋蔵文化財の包蔵状況を確認する。 ○個人専用住宅建設に先立つ本掘調査、開発等に伴う工事立会等を実施する。 ○過去に実施した発掘調査の報告書を刊行する。	通年 通年 通年	7, 260 (6,902)
合 計			49, 778